

保健管理センター業務報告書

(平成29年度版)

筑波大学保健管理センター

目 次

1. 保健管理センター沿革	1
2. 国立大学法人筑波大学保健管理センター細則	3
3. 保健管理センター運営委員会	6
4. 保健管理センターの組織図及び職員	8
5. 対応業務等	10
6. 入学志願者健康診断書審査及び精密健康診断	12
7. 学生健康診断	13
1) 定期健康診断	13
i) 受診状況	13
a) 学群生	13
b) 大学院生	14
c) 研究生	14
ii) 健康診断再検査者	15
2) 学生特殊健康診断	16
i) 電離放射線健康診断：学群生及び大学院生（研究生含む）	16
ii) 有機溶剤健康診断：学群生及び大学院生（研究生含む）	16
3) 特定化学物質健康診断	16
i) 学群生及び大学院生（研究生含む）	16
8. 職員健康診断	17
1) 一般健康診断	17
i) 受診者数及び受診率	17
ii) 項目別有所見者数及び率とその内訳	18
iii) 労働安全衛生規則13条第1項第2号の業務（特定業務）の従事者	19
iv) 胃造影検査	19
2) 特殊健康診断	20
i) 電離放射線健康診断	20
ii) 有機溶剤健康診断	20
iii) 特定化学物質健康診断	20
3) 特定健康診査（メタボリックシンドローム健康診断）	21
4) その他	22
i) 便潜血反応検査	22
ii) 喀痰細胞診検査	22
iii) 眼底検査	22
iv) P S A検査	22

9. 保健管理センター利用状況	23
1) 健康相談月別利用状況	23
i) 学生内科受診数	23
ii) 学生整形外科受診数	24
iii) 学生外科処置受診数	25
iv) 学生歯科受診数	26
v) 職員・その他	27
2) 学生相談利用状況	28
i) 学生相談内訳	28
ii) 学生相談室利用者の年次推移	30
iii) 総合相談窓口内訳	31
3) 精神衛生相談利用状況	34
i) 精神衛生相談内訳	34
ii) 学生の診断別件数	35
iii) 精神衛生相談利用者の年次推移（延数と実数）	36
10. その他	37
1) 予防接種者数	37
i) B型肝炎ワクチン接種	37
ii) インフルエンザワクチン接種	37
2) HBs抗原抗体検査	37
3) 臨床検査実施数	38
4) エックス線写真撮影件数及び枚数	39
5) 処方箋発行数	40
6) 外部診療機関紹介状況	41
7) 健康診断証明書等発行数	41
8) 救護活動	42
9) 救急箱貸出数	43
11. 学内広報・研修活動	44
1) 広報活動	44
2) 研修活動	45
12. 研究業績	50

1. 保健管理センター沿革

昭和48年10月の筑波大学の開学にあわせて、保健管理センターが設置された。昭和49年4月に専任の職員が発令となり、オリンピック記念青少年総合センターにおいて開かれた新入学生オリエンテーション以降、臨床医学系教員ほか関係各位の協力を得て救護活動を開始した。

昭和49年6月3日に筑波地区での講義開始に合せ、体育合宿所の一部で本格的業務を開始し、昭和50年7月に専用の建物が現在地に竣工し、移転した。

なお、昭和49年9月から、文部省（現文部科学省）共済組合筑波大学支部診療所が当センターに併設され、以後その業務についてもセンター職員が兼務している。

昭和53年3月31日の東京教育大学の閉学、筑波大学への移管に伴い、東京教育大学で健康管理業務を担ってきた健康相談所も閉鎖され、本学東京地区職員の健康管理業務は当センターが行うことになった。

昭和54年10月から、一の矢学生宿舎に夜間医務室を設け、医師が宿泊し夜間の救急に備えた。

開学当初は学生相談の対応とともに内科、精神科、整形外科及び歯科を開設し、昭和50年に眼科（現在は廃止）、また昭和57年には婦人科（同）が開設され、さらに昭和63年には運動選手を主たる対象とするスポーツ・クリニックも始められた。

平成元年に創立15周年を迎え、記念誌「健康への歩み」を発行した。

平成3年7月に、本学が当番大学となり第29回全国大学保健管理研究集会関東甲信越地方部会研究集会を大学会館国際会議室において開催した。

平成3年末に、附属病院の救急部の新設や近隣病院の開設等の医療体制の整備に伴い、一の矢学生宿舎の夜間医務室を廃止した。また、プロジェクトとしてのスポーツ・クリニックが終了し、平成4年度からはスポーツ外来部門を当センターの業務、トレーニング・クリニック部門を体育センターの業務とするスポーツ・クリニックがスタートした。

平成6年には、創立20周年を迎え、記念誌「学生相談室20周年誌」を発行した。

平成9年12月に、センター事務室等の改修工事が行われ、事務部門及び看護部門を一体化し、サービスセンターとしての機能の向上を図った。

平成10年4月から、健康診断実施業務の充実と省力化を図るため外部業者に業務委託を行うとともに、関連業務の効率化を図るための電算化を開始した。

平成11年には、健康診断業務の電算化をさらに推進し、受診者の健康管理や健康診断証明書発行業務等での一層の効率化を図った。また、創立25周年を迎え、記念誌を発行した。

平成14年10月の図書館情報大学との統合に伴い同大学体育・保健センターの保健部門との組織及び業務の統合が行われた。

平成16年4月の国立大学法人化に伴い、当センターも労働安全衛生法に基づく労働安全衛生業務を担当することになり、センター職員も産業医や衛生管理者として専門的業務に対応することになった。

平成19年7月に、本学が当番大学となり第45回全国大学保健管理研究集会関東甲信越地方部会研究集会を大学会館講堂において開催した。

平成20年1月に、学生健康診断証明書の証明書自動発行機からの発行が開始となり、学生の利便性が図られた。

平成23年3月に、学生相談のWEBサイトのリニューアルを行い、モバイルサイトを構築した。

平成24年2月に、学生相談窓口を春日エリアにも開設した。

平成24年3月に、保健管理センターホームページのリニューアルを行った。

平成25年10月1日から、耐震改修工事のため、文部科学省共済組合筑波大学支部診療所を休診とし、当センターのみ11月11日に、クラブハウスに仮移転して診療業務を開始した。なお、文部科学省共済組合筑波大学支部診療所は、耐震改修後の併設が困難なことから、平成26年1月31日に廃止した。

平成26年6月24日に、当センターの耐震改修工事が完了したため、仮移転先のクラブハウスから移転した。

平成27年10月から、本学附属病院主催の「診療の安全に関する研修」（年2回開催）を当センターにてDVD研修として実施した。

平成28年6月に設置された保健管理センターのあり方検討会を経て、11月に保健管理センター改革準備委員会が設置され、センター改革に関する具体的な検討を行った。

平成29年4月の保健管理センター改革準備委員会の改革提言（診療の有償化、健診・救護に関わる業務の効率化、学生相談・メンタルヘルス対策充実に関わる体制・環境の見直し及び管理・運営体制の見直し）が学内諸会議を経て第180回役員会（平成29年6月22日）で報告され、9月にタスクフォースを設置し、具体的な施策の検討を行った。また、入試救護の集約化等については、関係組織と協議し一部実施した。

2. 国立大学法人筑波大学保健管理センター細則

〔平成16年4月1日〕
〔保健管理センター部局細則第1号〕

改正 平成26年保健管理センター部局細則第1号
平成30年保健管理センター部局細則第1号

保健管理センター細則

(趣 旨)

第1条 この部局細則は、国立大学法人筑波大学の組織及び運営の基本に関する規則（平成16年法人規則第1号。以下「基本規則」という。）第54条第3項の規定に基づき、保健管理センター（以下「センター」という。）の組織及び運営に関し必要な事項を定めるものとする。

(目 的)

第2条 センターは、国立大学法人筑波大学（以下「本学」という）における保健管理に関する専門的業務を行い、もって本学の学生及び職員の心身の健康の維持及び増進を図ることを目的とする。

(業 務)

第3条 センターは、次に掲げる業務を行う。

- (1) 学生及び職員等の健康管理等についての企画及び立案に関すること。
- (2) 学生及び職員等の定期及び臨時の健康診断の実施並びに保健指導に関すること。
- (3) 学生及び職員等の急病等に対し応急診療及び救急処置を行うこと。
- (4) 学生及び職員等の健康相談に応じること。
- (5) 学生のメンタルヘルスに関する相談、診療及び企画を行うこと。
- (6) 環境衛生及び伝染病の予防に関し教育指導を行うこと。
- (7) 心身の健康障害の予防及び保健管理の充実向上のための専門的調査研究を行うこと。
- (8) 学生の修学、対人関係、その他生活上の諸問題及び進路指導における適性に関し、相談に応じること。
- (9) その他健康管理等に関する専門的業務を行うこと。

2 センターは、前項各号の業務のうち職員に係るものについては、基本規則第35条第1項及び国立大学法人筑波大学職員の安全衛生管理規則（平成16年法人規則第29号）第10条に規定する特別な組織として設置される環境安全管理室と連携して、これを行うものとする。

(副所長)

第4条 センターに、副所長を置く。

- 2 副所長は、基本規則第55条に定める保健管理センター所長（以下「所長」という。）が、センターの業務に従事する大学教員の中から指名する。
- 3 副所長は、所長の職務を補佐する。
- 4 副所長の任期は、2年とする。ただし、任期の終期は、副所長となる日の属する年度の翌年度の末日とする。

(部 門)

第5条 センターに、次の表の左欄に掲げる部門を置き、同表右欄の業務を担当する。

名 称	担当業務
フィジカルヘルス部門	身体に関する業務
メンタルヘルス部門	メンタルヘルスに関する業務

- 2 前項に規定する部門にリーダーを置き、所長が指名する。
- 3 リーダーは第1項に掲げる業務を統括する。
- 4 リーダーの任期は、2年とする。ただし、任期の終期は、リーダーとなる日の属する年度の翌年度の末日とする。

(運営委員会)

第6条 センターに、基本規則第57条に規定する運営委員会として、センター運営委員会（以下「委員会」という。）を置く。

- 2 委員会は、センターの管理運営に関する基本事項を審議する。
- 3 委員会は、次に掲げる委員で組織する。
 - (1) 所長
 - (2) 副所長
 - (3) センターの業務に従事する大学教員 2人
 - (4) 人間系長の推薦に基づき所長が委嘱する教員 2人
 - (5) 医学医療系長の推薦に基づき所長が委嘱する教員 3人
 - (6) その他センターの維持運営に係る大学教員 4人
 - (7) 学生部長

第7条 前条第2号から第5号までの委員の任期は、2年とする。ただし、任期の終期は、委員となる日の属する年度の翌年度の末日とする。

- 2 補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。
- 3 前2項の委員は、再任されることができる。

第8条 委員会に委員長を置き、所長をもって充てる。

- 2 委員長は、委員会を主宰する。
- 3 委員長に事故があるときは、副所長がその職務を代行する。

第9条 委員会は、過半数の委員が出席しなければ、議事を開き、議決することができない。

- 2 委員会の議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、委員長の決するところによる。

(センター会議)

第10条 センターに、センター業務の円滑な運営を図るため、センター会議を置く。

- 2 センター会議に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

- 1 この部局細則は、平成16年4月1日から施行する。
- 2 この部局細則施行前に運営委員会の委員である者であって、この部局細則施行後も当該委員として任期が引き続くものについては、この部局細則により運営委員会の委員となるものとみなす。ただし、その任期は、第5条第1項本文の規定にかかわらず、この部局細則施行の日から平成17年3月31日までとする。

附 則

この部局細則は、平成26年12月16日から施行し、改正後の国立大学法人筑波大学保健管理センター細則の規定は、平成25年4月1日から適用する。

附 則

この部局細則は、平成30年4月1日から施行する。

3. 保健管理センター運営委員会

1) 運営委員名簿

平成29年10月1日現在

氏名	職名	所属	任期	備考
(センター所長)				
太刀川 弘和	准教授	医学医療系	-	
(センターの業務に従事する大学教員)				
杉江 征	教授	人間系	28. 4. 1 ~ 30. 3.31	
久賀 圭祐	教授	医学医療系	28. 4. 1 ~ 30. 3.31	
(人間総合科学研究科の業務に従事する大学教員)				
吉田 武男	教授	人間系	29. 4. 1 ~ 31. 3.31	教育学域
沢宮 容子	教授	人間系	29. 4. 1 ~ 31. 3.31	心理学域
檜澤 伸之	教授	医学医療系	29. 4. 1 ~ 31. 3.31	臨床学域
小池 朗	教授	医学医療系	29. 4. 1 ~ 31. 3.31	臨床学域
川上 康	教授	医学医療系	29. 4. 1 ~ 31. 3.31	臨床学域
(その他センターの維持運営に関係する大学教員)				
中村 修	教授	環境安全管理室	29.10. 1 ~ 30. 3.31	環境安全管理室長
田中 博	教授	計算科学研究センター	28. 4. 1 ~ 30. 3.31	学生生活支援室長
山田 幸雄	教授	体育系	28. 4. 1 ~ 30. 3.31	体育センター長
新井 哲明	教授	医学医療系	28. 4. 1 ~ 30. 3.31	附属病院 精神神経科グループ長
(本部部長であって学生生活に関する業務に従事する職員)				
生井 栄	部長	学生部	-	

2) 運営委員会議事

平成29年度の運営委員会は1回開催し、通常議題のほか、保健管理センター細則の一部改正及び保健管理センター所長の候補者の内申について審議を行った。

第1回 平成30年1月22日開催

- 議題等
- ・平成29年度保健管理センター年度計画について
 - ・保健管理センター細則の一部改正について
 - ・保健管理センター所長の候補者の内申について
 - ・教員人事について

2) 職 員

所 長	精神科：太刀川 弘和 准教授
教 員	内 科：久賀 圭祐 教授*，坂本 透 准教授，金子 剛 講師* 整形外科：船山 徹 講師 精 神 科：白鳥 裕貴 講師，石井 映美 助教 心 理：杉江 征 教授，田附 あえか 助教，田中 崇恵 助教， 慶野 遥香 助教
医 療 職 員	岡本 祐子 看護師，寺門 恵美子 看護師，井上 由美 看護師， 森山 恵美子 看護師 大畑 瞳 薬剤師（～8 / 15），谷田 有妙枝 薬剤師（8 / 16～） 福島 幸子 歯科衛生士 片岡 裕司 診療放射線技師
事 務 職 員	古山 陽一 専門職員（シニアスタッフ），川崎 由紀子 主任
非 常 勤 医 師	榎本 真美（内科），齋藤 洋子（内科），下川 治（内科）， 埜口 博司（整形外科），宮本 芳明（整形外科），武田 さき子（歯科）， 竹田 弘美（歯科），佐々木 恵美（精神科）
非 常 勤 職 員 等	渡邊 明子 薬剤師，小倉 由紀乃 臨床検査技師， 澤井 朱美 臨床検査技師（10 / 1～） 飯田 亜紀 臨床心理士，吉原 啓 臨床心理士， 河合 由貴子 臨床心理士，杉村 舞 臨床心理士， 後藤 美和子 臨床心理士，佐藤 有次朗 臨床心理士（テスター）（～6 / 30）， 竹田 祐子 臨床心理士，山口 佳子 臨床心理士， 宣 聖美 臨床心理士（テスター）（8 / 1～） 高野 雄二 シニアスタッフ，鈴木 京子 シニアスタッフ， 黒堀 沙織 事務補佐員

(注) *は産業医

他に臨床医学域，心理学域，体育系からの多数の教員の御協力，御支援をいただいた。

5. 対 応 業 務 等

4月	<p>入学式救護と新入生オリエンテーション対応 学群学生，大学院学生，研究生，日本語研修生等の定期健康診断と再検査 フレッシュマンセミナーでの講演</p>
5月	<p>放射線業務従事者講習会に伴う電離放射線健康診断 学生定期健康診断に伴う再検査・精密検査 障害のある学生定期健康診断 職員一般定期健康診断 学生・職員特殊健康診断 職員便潜血検査・喀痰検査・前立腺特異抗原（PSA）検査 医学群学生ワクチン（B型肝炎）接種 春季スポーツ・デー救護 フレッシュマンセミナーでの講演</p>
6月	<p>職員一般定期健康診断 学生・職員特殊健康診断 職員の便潜血検査・喀痰検査・前立腺特異抗原（PSA）検査 職員一般定期健康診断（東京地区） 学生・職員特殊健康診断（東京地区） 職員の便潜血検査・喀痰検査・前立腺特異抗原（PSA）検査（東京地区） 学生定期健康診断に伴う再検査・精密検査 体育専門学群学生水泳臨海実習参加者健康診断審査・精密検査 医学群学生ワクチン（B型肝炎）接種</p>
7月	<p>放射線業務従事者講習会に伴う電離放射線健康診断 学生定期健康診断に伴う再検査・精密検査 共通科目「体育」集中実習（水辺活動）受講学生に対する健康診断審査・精密検査 大学院推薦入学試験に伴う救護 学群編入学試験に伴う救護 留学生とその家族のための健康管理セミナー協力 全国大学保健管理協会・関東甲信越地方部会研究集会参加</p>
8月	<p>体育専門学群学生水泳臨海実習参加者健康診断審査・精密検査 大学院入学試験に伴う救護 大学院入学試験に伴う救護（東京地区） 受験生のための筑波大学説明会に伴う救護</p>
9月	<p>大学院入学試験に伴う救護（東京地区）</p>
10月	<p>アドミッションセンター入学試験（第I期），国際科学オリンピック特別入学試験， 国際バカロレア特別入学試験に伴う救護 大学院入学試験（10月期）に伴う救護 全国大学保健管理研究集会参加</p>

11月	秋学期入学者・外国人留学生健康診断と再検査 学生・職員特殊健康診断・眼底検査 放射線業務従事者講習会に伴う電離放射線健康診断 職員特殊健康診断（東京地区） 職員の胃X線検査・眼底検査（東京地区） 医学群学生ワクチン（インフルエンザ）接種 学園祭に伴う救護 秋季スポーツ・デー救護 学群推薦入学試験に伴う救護 学群推薦入学試験（体育専門学群）に伴う精密検査 全国学生相談研修会参加
12月	職員の胃X線検査 大学院（グローバル教育院）入学試験に伴う救護
1月	大学入試センター試験に伴う救護 全国学生相談研究会議参加 大学院入学試験に伴う救護
2月	学生定期健康診断（医学類，看護・医療科学類，教育実習，介護等体験） 大学院入学試験に伴う救護（東京地区） 大学院入学試験（2月期）に伴う救護 個別学力検査等試験前期日程に伴う精密検査・救護
3月	放射線業務従事者講習会に伴う電離放射線健康診断 個別学力検査試験後期日程に伴う救護 卒業式・学位記授与式に伴う救護

（注）（東京地区）の記載のないものはすべて筑波地区で実施したものの。

標記の行事等対応業務のほか、次の日常的な主要業務を行った。

- ・内科，整形外科，スポーツクリニック，歯科，精神科の日常診療，健康相談，随時応急措置
- ・学生，職員要経過観察者の管理
- ・学生相談，精神衛生相談，職業適性テスト，ロールシャッハテスト
- ・健康診断証明書の発行
- ・スポーツ健康診断
- ・海外派遣労働者健康診断

6. 入学志願者健康診断書審査及び精密健康診断

月別 区分	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
学 群											29		29
第 2 次											29		29
学群推薦 A.C 入試								20					20
								20					20
科 目 等 履修生群生													
大 学 院													
科目等履修生 大学院研究生													
研 究 生・ 聴 講 生													
理療科教員 養成施設							1		17				18
							0		0				0
外 国 人 留 学 生													
2学期入学 編 入 学													
計							1	20	17		29		67
							0	20	0		29		49

※上段は書類審査数、下段は精密健康診断を実施

7. 学 生 健 康 診 断

1) 定期健康診断

i) 受診状況

a) 学群生

学 群 ・ 学 類	在籍者数 (人)						受診者数 (人)						受診率 (%)								
	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	合計	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	合計	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	合計
人文・文 化学類	180	129	118	163			590	162	96	91	113			462	90.0%	74.4%	77.1%	69.3%			78.3%
	108	88	85	105			386	100	87	66	78			331	92.6%	98.9%	77.6%	74.3%			85.8%
	91	47	45	56			239	96	43	39	43			221	105.5%	91.5%	86.7%	76.8%			92.5%
社会・国 際学類	106	95	100	124			425	107	82	61	76			326	100.9%	86.3%	61.0%	61.3%			76.7%
	140	103	93	135			471	152	71	70	76			369	108.6%	68.9%	75.3%	56.3%			78.3%
人間学群	51	37	35	47			170	37	36	31	35			139	72.5%	97.3%	88.6%	74.5%			81.8%
	58	51	53	67			229	57	50	43	40			190	98.3%	98.0%	81.1%	59.7%			83.0%
生命環境 学類	47	37	38	39			161	39	35	34	31			139	83.0%	94.6%	89.5%	79.5%			86.3%
	105	102	97	110			414	114	87	89	80			370	108.6%	85.3%	91.8%	72.7%			89.4%
理工学群	193	150	152	160			655	245	132	111	128			616	126.9%	88.0%	73.0%	80.0%			94.0%
	63	55	59	69			246	63	47	39	53			202	100.0%	85.5%	66.1%	76.8%			82.1%
医学類	45	41	40	46			172	43	38	35	35			151	95.6%	92.7%	87.5%	76.1%			87.8%
	70	66	65	76			277	61	61	59	48			229	87.1%	92.4%	90.8%	63.2%			82.7%
情報学類	54	53	55	56			218	52	52	40	48			192	96.3%	98.1%	72.7%	85.7%			88.1%
	135	128	136	156			555	131	95	109	116			451	97.0%	74.2%	80.1%	74.4%			81.3%
医学群	142	132	143	170			587	137	117	106	108			468	96.5%	88.6%	74.1%	63.5%			79.7%
	128	124	126	152			530	128	111	94	109			442	100.0%	89.5%	74.6%	71.7%			83.4%
情報学群	93	84	106	131			414	85	69	87	81			322	91.4%	82.1%	82.1%	61.8%			77.8%
	55	55	67	82			259	55	44	60	64			223	100.0%	80.0%	89.6%	78.0%			86.1%
医学類	110	102	120	134			466	104	87	106	108			405	94.5%	85.3%	88.3%	80.6%			86.9%
	141	142	133	126	118	138	798	140	134	124	122	115	132	767	99.3%	94.4%	93.2%	96.8%	97.5%	95.7%	96.1%
医学群	73	72	79	88			312	73	70	78	85			306	100.0%	97.2%	98.7%	96.6%			98.1%
	44	39	45	46			174	39	34	41	38			152	88.6%	87.2%	91.1%	82.6%			87.4%
体育 芸術	294	255	254	275			1,078	255	250	246	237			988	86.7%	98.0%	96.9%	86.2%			91.7%
	125	112	107	138			482	116	101	87	97			401	92.8%	90.2%	81.3%	70.3%			83.2%
合 計	2,651	2,299	2,351	2,751	118	138	10,308	2,591	2,029	1,946	2,049	115	132	8,862	97.7%	88.3%	82.8%	74.5%	97.5%	95.7%	86.0%

b) 大学院生

所 属	在籍者数	受診者数	受診率 (%)	
修士課程	教 育	230	174	75.7%
	小 計	230	174	75.7%
博士課程	人 文 社 会 科 学	780	504	64.6%
	ビ ジ ネ ス 科 学	546	0	0.0%
	数 理 物 質 科 学	811	676	83.4%
	シ ス テ ム 情 報 工 学	1,382	1,036	75.0%
	生 命 環 境 科 学	1,163	880	75.7%
	人 間 総 合 科 学	2,219	1,159	52.2%
	図 書 館 情 報 メ デ ィ ア	236	117	49.6%
	グ ロー バ ル 教 育 院	132	103	78.0%
	小 計	7,269	4,475	61.6%
合 計	7,499	4,649	62.0%	

c) 研究生

	在籍者数	受診者数	受診率 (%)
外 国 人	1,453	689	47.4%
日 本 人	292	26	8.9%
合 計	1,745	715	41.0%

※ 4 月期, 10 月期入学含む。

ii) 健康診断再検査者

項 目	学 群 生				大 学 院 生				研 究 生 等				合 計			
	対 象 者 数	受 検 者 数	結 果		対 象 者 数	受 検 者 数	結 果		対 象 者 数	受 検 者 数	結 果		対 象 者 数	受 検 者 数	結 果	
			要 治 療	経 過 観 察			要 治 療	経 過 観 察			要 治 療	経 過 観 察			要 治 療	経 過 観 察
胸 部 X 線	7	7		6	8	8	1	4	6	6		6	21	21	1	16
血 圧	6	5		2	8	8	1	2	3	2	2	1	17	15	3	5
尿 蛋 白	54	40		3	15	15		1	3	2			72	57	0	4
	糖	30	24		3	14	14		4	3	2		47	40	0	7
内 科 所 見	24	23	2	7	11	10	0	3	4	4	0	1	39	37	2	11
心 電 図	33	30	1	24	/	/	/	/	/	/	/	/	33	30	1	24
貧 血	31	22	15	5	/	/	/	/	/	/	/	/	31	22	15	5
肥 満	4	3	1	2	/	/	/	/	/	/	/	/	4	3	1	2
計	189	154	19	52	56	55	2	14	19	16	2	8	264	225	23	74

(注) 貧血検査対象者は、学群新生女子及び、体育専門学群新生男子である。

(注) 心電図検査対象者は、学群の新生（但し編入生は除く）及び、体育専門学群生全員である。

(注) 結果：異常なしは、受検者数 - (要治療 + 経過観察) である。

2) 学生特殊健康診断

i) 電離放射線健康診断：学群生及び大学院生（研究生含む）

実施月	対象数	受診数	要再検数	結 果		
				異常なし	要観察	要治療
5月（10日）	98	93	0	81	12	0
6月（7日）	36	27	0	27	3	0
5月	241	145	0	130	15	0
7月（5日）	11	8	0	7	1	0
11月（8日）	16	14	0	10	4	0
11月	303	164	0	131	13	0
平成30年 3月（7日）	37	37	0	31	6	0
合 計	742	488	0	417	54	0

（注）実施月のうち5月，11月以外は，新規に放射線作業に従事するために講習を受けた者のみの健康診断である。

ii) 有機溶剤健康診断：学群生及び大学院生（研究生含む）

実施月	対象数	受診数	要再検数	結 果		
				異常なし	要観察	要治療
5月	44	44	0	36	8	0
11月	17	17	1	13	3	0
合 計	61	61	1	49	11	0

3) 特定化学物質健康診断

i) 学群生及び大学院生（研究生含む）

実施月	対象数	受診数	要再検数	結 果		
				異常なし	要観察	要治療
5月	45	45	1	24	20	0
11月	17	17	4	8	9	0
合 計	62	62	5	32	29	0

8. 職員一般定期健康診断

1) 定期健康診断

i) 受診者数及び受診率

(平成29年6月1日在職者，非常勤職員：週20時間以上の勤務者)

事業場	受診者数／職員数（受診率）		
	常勤	非常勤	全体
大学本部等事業場	2,417/2,690 (89.9%)	579/628 (92.2%)	2,996/3,318 (90.3%)
附属病院事業場	1,514/1,694 (89.4%)	504/514 (98.1%)	2,018/2,208 (91.4%)
東京キャンパス事業場	116/140 (82.9%)	14/17 (82.4%)	130/157 (82.8%)
附属小学校事業場	34/39 (87.2%)	9/9 (100.0%)	43/48 (89.6%)
附属中学校事業場	32/32 (100.0%)		32/32 (100.0%)
附属高等学校事業場	38/43 (88.4%)	1/1 (100.0%)	39/44 (88.6%)
附属駒場中学校・ 附属駒場高等学校事業場	46/47 (97.9%)	2/3 (66.7%)	48/50 (96.0%)
附属坂戸高等学校事業場	39/49 (79.6%)	0/1 (0.0%)	39/50 (78.0%)
附属視覚特別支援学校事業場	104/113 (92.0%)	0/1 (0.0%)	104/114 (91.2%)
附属聴覚特別支援学校事業場	99/104 (95.2%)	2/2 (100.0%)	101/106 (95.3%)
附属大塚特別支援学校事業場	37/41 (90.2%)	1/1 (100.0%)	38/42 (90.5%)
附属桐が丘特別支援学校事業場	68/73 (93.2%)	8/8 (100.0%)	76/81 (93.8%)
附属久里浜特別支援学校事業場	36/42 (85.7%)	3/3 (100.0%)	39/45 (86.7%)
計	4,580/5,107 (89.7%)	1,123/1,188 (94.5%)	5,703/6,295 (90.6%)
(平成28年度)	4,725/5,116 (92.4%)	1,132/1,207 (93.8%)	5,857/6,323 (92.6%)

(平成30年1月31日までの集計結果)

健康診断実施日 筑波地区：平成29年5月30日～6月8日（8日間） 11月7日～11月10日（4日間）

東京地区：平成29年6月21日～6月23日（3日間） 11月22日（1日間）
附属坂戸高等学校事業場，附属久里浜養護学校事業場，その他の遠隔地では別日程で実施。人間ドックや他の医療機関等の結果報告を含む。

ii) 項目別有所見者数及び率とその内訳

項目	実施者数	有所見者		要経過観察		要精密検査		要治療		治療継続	
		人数	率	人数	率	人数	率	人数	率	人数	率
聴力検査(1000Hz)	2,767人	98人	3.5%	97人	3.5%	1人	0.1%	0人	0%	0人	0%
聴力検査(4000Hz)	2,755人	154人	5.6%	150人	5.4%	4人	0.1%	0人	0%	0人	0%
聴力検査(会話法)	2,773人	4人	0.1%	4人	0.1%	0人	0%	0人	0%	0人	0%
胸部エックス線検査	5,129人	429人	8.4%	241人	4.7%	106人	2.1%	0人	0%	82人	1.6%
喀痰検査	0人										
血圧検査	5,579人	1,363人	24.4%	900人	16.1%	67人	1.2%	12人	0.2%	384人	6.9%
貧血検査	5,566人	1,358人	24.4%	1,088人	19.5%	154人	2.8%	67人	1.2%	49人	0.9%
肝機能検査	3,998人	987人	24.7%	672人	16.8%	299人	7.5%	5人	0.1%	11人	0.3%
血中脂質検査	3,998人	2,263人	56.6%	1,571人	39.3%	498人	12.5%	3人	0.1%	191人	4.8%
血糖検査	5,309人	2,267人	42.7%	2,056人	38.7%	102人	1.9%	0人	0%	109人	2.1%
尿検査(糖)	5,545人	156人	2.8%	1人	0.1%	40人	0.7%	0人	0%	115人	2.1%
尿検査(蛋白)	5,551人	57人	1.0%	32人	0.6%	12人	0.2%	0人	0%	13人	0.2%
心電図検査	4,022人	208人	5.2%	15人	0.4%	159人	4.0%	0人	0%	34人	0.8%

健康診断実施者中における上記項目全体の総合判定結果の人数と率

要経過観察		要精密検査		要治療		治療継続	
人数	率	人数	率	人数	率	人数	率
2,672人	46.9%	1,189人	20.8%	87人	1.9%	681人	11.9%

健康診断実施者中における上記項目全体の有所見者数及び率と要指示者数及び率

1つ以上所見のある者の数	有所見率	医療機関受診が必要な者の数	要指示率
3,890人	68.2%	1,230人	21.6%

iii) 労働安全衛生規則第13条第1項第2号の業務（特定業務）の従事者

業務	高熱	低温	放射線	粉じん	異常気圧	振動	重量物
人数	1人	4人	204人	0人	1人	1人	40人
業務	騒音	坑内	深夜	酸・アルカリ	有害物ガス	病原体汚染	その他
人数	9人	0人	461人	19人	9人	135人	0人

iv) 胃造影検査

地 区	対象数	受診数	受診率	要再検数
筑波地区	2,494	22	0.9%	0
東京地区	477	12	2.5%	0
合 計	2,971	34	1.1%	0

(注) 対象は40才以上の常勤職員。平成25年度から全員間接撮影。

2) 特殊健康診断

i) 電離放射線健康診断：職員（常勤職員及び非常勤職員， 研究員， その他）

実施月	対象数	受診数	要再検数	結 果		
				異常なし	要観察	要治療
5月（10日）	10	8	0	4	4	0
6月（7日）	1	1	0	1	0	0
5月	541	513	0	475	38	0
7月（5日）	1	1	0	1	0	0
11月（8日）	3	3	0	3	0	0
11月	547	453	0	435	18	0
平成30年 3月（7日）	1	1	0	1	0	0
合 計	1,104	980	0	920	60	0

（注）実施月のうち5月，11月以外は，新規に放射線作業に従事するために講習を受けた者のみの健康診断である。

ii) 有機溶剤健康診断：職員（常勤職員及び非常勤職員， 研究員， その他）

実施月	対象数	受診数	要再検数	結 果		
				異常なし	要観察	要治療
5月	37	37	0	37	0	0
11月	31	31	0	31	0	0
合 計	68	68	0	68	0	0

iii) 特定化学物質健康診断：職員（常勤職員及び非常勤職員， 研究員， その他）

実施月	対象数	受診数	要再検数	結 果		
				異常なし	要観察	要治療
5月	33	33	0	33	0	0
11月	26	26	0	26	0	0
合 計	59	59	0	59	0	0

3) 特定健康診査（メタボリックシンドローム健康診断） 40歳以上職員

対象	対象者数	受診者数 (受診率)	危険度0 (該当率)	危険度1 (該当率)	危険度2 (該当率)	危険度3 (該当率)	危険度4 (該当率)	判定不能 (該当率)	
男	常勤	2,035人	1,696人 (83.3%)	905人 (53.4%)	158人 (9.3%)	303人 (17.9%)	240人 (14.2%)	88人 (5.2%)	2人 (0.1%)
	非常勤	131人	117人 (89.3%)	54人 (46.2%)	10人 (8.5%)	22人 (18.8%)	16人 (13.7%)	15人 (12.8%)	0人 (0.0%)
	小計	2,166人	1,813人 (83.7%)	959人 (52.9%)	168人 (9.3%)	325人 (17.9%)	256人 (14.1%)	103人 (5.7%)	2人 (0.1%)
女	常勤	1,066人	947人 (88.8%)	841人 (88.8%)	29人 (3.1%)	41人 (4.3%)	25人 (2.6%)	10人 (1.1%)	1人 (0.1%)
	非常勤	527人	509人 (96.6%)	463人 (91.0%)	14人 (2.8%)	18人 (3.5%)	8人 (1.6%)	6人 (1.2%)	0人 (0.0%)
	小計	1,593人	1,456人 (91.4%)	1,304人 (89.6%)	43人 (3.0%)	59人 (4.1%)	33人 (2.3%)	16人 (1.1%)	1人 (0.1%)
計	3,759人	3,269人 (87.0%)	2,263人 (69.2%)	211人 (6.5%)	384人 (11.7%)	289人 (8.8%)	119人 (3.6%)	3人 (0.1%)	
治療薬服用者 (既治療率)				197人 (8.7%)		89人 (23.2%)	123人 (42.6%)	75人 (63.0%)	

●診断基準

1. 腹囲 男性85cm以上 女性90cm以上

+

2. 血糖：空腹時血糖が110mg/dl以上 または ヘモグロビンA1c値が5.5%以上
または 糖尿病で薬剤治療中
3. 血圧：収縮期血圧が130mmHg以上 または 拡張期血圧が85mmHg以上
または 高血圧で薬剤治療中
4. 脂質：中性脂肪値が150mg/dl以上 または HDLコレステロール値が40mg/dl未満
または 脂質異常症で薬剤治療中

●判定基準

危険度0（メタボリックシンドローム基準非該当）：全項目該当なし

危険度1（メタボリックシンドローム基準非該当）：腹囲のみ該当

危険度2（メタボリックシンドローム予備群該当）：腹囲+1項目に該当

危険度3（メタボリックシンドローム基準該当）：腹囲+2項目に該当

危険度4（メタボリックシンドローム基準該当）：全項目に該当

判定不能：未実施項目があり判定できない

4) その他

i) 便潜血反応検査

地 区	対象数	受診数	受診率	要再検数
筑波地区	2,494	132	5.3%	6
東京地区	477	61	12.8%	4
合 計	2,971	193	6.5%	10

(注) 対象は40才以上の常勤職員の希望者。

免疫学的便潜血反応検査（ラテックス凝縮法）を用いた。

ii) 喀痰細胞診検査

地 区	対象数	受診数	受診率	要再検数
筑波地区	2,494	60	2.4%	0
東京地区	477	52	10.9%	0
合 計	2,971	112	3.8%	0

(注) 対象は40才以上の常勤職員の希望者。3日間連続蓄痰法により検査した。

iii) 眼底検査

地 区	対象数	受診数	受診率	要再検数
筑波地区	221	80	36.2%	7
東京地区	26	8	30.8%	1
合 計	247	88	35.6%	8

(注) 対象はHbA1c 6.5以上、最高血圧160以上、最低血圧100以上のいずれかに該当する者。

iv) P S A検査

地 区	対象数	受診数	受診率	要再検数
筑波地区	710	457	64.4%	51
東京地区	120	79	65.8%	9
合 計	830	536	64.6%	60

(注) 対象は、S38.3.31以前生まれの常勤男性職員。

9. 保健管理センター利用状況

1) 健康相談月別利用状況

i) 学生内科受診数

区 分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
人文・文化学群生	17	36	15	22	6	6	21	16	21	12	9	1	182
社会・国際学群生	4	25	13	13	6	9	17	15	11	20	9	1	143
人間学群生	3	15	10	5	4	2	15	8	4	15	5	2	88
生命環境学群生	4	34	32	25	9	11	35	21	19	23	10	5	228
理工学群生	20	59	38	33	9	13	32	19	32	25	11	9	300
情報学群生	5	28	10	12	4	4	9	19	8	16	7	5	127
医学群生	8	22	26	33	4	15	20	17	12	6	16	1	180
体育専門学群生	6	27	14	14	4	6	16	9	8	12	9	8	133
芸術専門学群生	4	14	7	15	7	2	15	6	7	11	7	1	96
グローバル教育院 (学士過程)									1				1
学 群 生 小 計	71	260	165	172	53	68	180	130	123	140	83	33	1,478
大 学 院 生	38	118	76	94	49	56	119	89	102	101	66	51	959
研 究 生 等	8	17	11	12	5	4	39	24	34	27	12	13	206
大学院・研究生等 小 計	46	135	87	106	54	60	158	113	136	128	78	64	1,165
合 計	117	395	252	278	107	128	338	243	259	268	161	97	2,643

ii) 学生整形外科受診数

区 分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
人文・文化学群生	2	7	5	13	2	2	7	11	7	7	2	3	68
社会・国際学群生	4	9	8	11	3	3	10	12	5	8	2	5	80
人間学群生	1		5	1	2	2	7	2	3	3	4	3	33
生命環境学群生	6	10	9	12	5	5	16	3	14	5	3	6	94
理工学群生	15	27	21	21	19	14	15	19	21	12	6	10	200
情報学群生	3	3	5	7	5	1	3	6	1	4	5	3	46
医学群生	2	11	8	17	2	9	15	5	9	6	7	10	101
体育専門学群生	10	31	24	39	24	40	20	36	25	11	29	17	306
芸術専門学群生	1	3	3	1	1	2	4	3	1	1			20
グローバル教育院 (学 士 過 程)	/	/	/	/	/	/		1		1			2
学 群 生 小 計	44	101	88	122	63	78	97	98	86	58	58	57	950
大 学 院 生	8	22	19	33	18	19	29	18	16	22	15	26	245
研 究 生 等	1	4	3	5	1		4	2	3	5	5	3	36
大学院・研究生等 小 計	9	26	22	38	19	19	33	20	19	27	20	29	281
合 計	53	127	110	160	82	97	130	118	105	85	78	86	1,231

iii) 学生外科処置受診数

区 分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
人文・文化学群生	3	4	1	2	1		2	1			1	2	17
社会・国際学群生	2	2	3			1	3		1		1	1	14
人間学群生	1	3	2							1			7
生命環境学群生	5	9	1	2		2	6	3	5		1	1	35
理工学群生	2	6	6	5	1	1	7					1	29
情報学群生	1	2	3				2		1				9
医学群生	2	5	2		1	1	1	1	1		1	1	16
体育専門学群生	1	4	5	2			1		1		1		15
芸術専門学群生	1	2	2	2	1	1		2		2	2		15
グローバル教育院 (学士過程)	/	/	/	/	/	/		1					1
学群生小計	18	37	25	13	4	6	22	8	9	3	7	6	158
大学院生	5	11	9	4	5	6	2	4	2	3		3	54
研究生等	4	5	9			2	1	3	1	3	2	1	31
大学院・研究生等 小計	9	16	18	4	5	8	3	7	3	6	2	4	85
合計	27	53	43	17	9	14	25	15	12	9	9	10	243

iv) 学生歯科受診数

区 分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
人文・文化学群生	5	8	6	10	8	4	5	4	7	9	2	2	70
社会・国際学群生	3	11	4	11	8	3	12	10	4	15	9	5	95
人間学群生	7	9	2	5	3	5	3	4	3	4	3	3	51
生命環境学群生	6	15	15	16	7	4	10	7	5	7	5	5	102
理工学群生	7	13	10	11	5	5	17	13	10	12	8	8	119
情報学群生	3	7	3	9	2	4	3	3	11	2	6	4	57
医学群生	5	10	4	16	8	7	6	3	12	8	5	8	92
体育専門学群生		2	7	3	2	1	3		5	5	14	1	43
芸術専門学群生	3	5	6	9	3	3	4	9	2	2	3	1	50
学群生小計	39	80	57	90	46	36	63	53	59	64	55	37	679
大学院生	29	66	59	60	52	70	34	31	48	50	32	42	573
研究生等	3	6	5	7	2		8	16	8	13	14	18	100
大学院・研究生等 小計	32	72	64	67	54	70	42	47	56	63	46	60	673
合計	71	152	121	157	100	106	105	100	115	127	101	97	1,352

v) 職員・その他

月 区分/ 科別内訳	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
本学職員	8	18	14	27	10	9	11	9	26	21	9	9	171
その他の 外 来 者				1	1	1	1		2			1	7
区分合計	8	18	14	28	11	10	12	9	28	21	9	10	178
内 科	4	9	12	19	7	8	8	7	19	16	5	3	117
整形外科	2	3	1	6	3	1	2		6	4	2	2	32
歯 科	2	1	1	3	1				2		1	3	14
外科処置		5				1	2	2	1	1	1	2	15
科別合計	8	18	14	28	11	10	12	9	28	21	9	10	178

(注) その他の外来者とは、本学校内における公開講座、合宿の参加者、見学者などである。

2) 学生相談利用状況

i) 学生相談内訳

保健管理センターと春日相談室合計

区 分		修 学	進 路	友 人 関 係	異 性	結 婚	家 庭	情 緒 性 格	人 生 問 題	経 済	住 居	そ の 他 の 問 題	U P I 呼 出 面 接 * (1)	合 計	実 数	
学 群	人 文 ・ 文 化 学 群	78	16	12	4		14	422	11			18	10	585	96	
	社 会 ・ 国 際 学 群	15	1		3		2	94	1			6	7	129	32	
	人 間 学 群	17	2	1	10		13	136			1	16	8	204	46	
	生 命 環 境 学 群	30	4	1	2		5	137	8		1	11	17	216	63	
	理 工 学 群	80	21	2	14		5	319	3		1	37	16	498	88	
	情 報 学 群	85	20	10	6		4	227					3	16	371	59
	医 学 群	44	2				1	70					5	6	128	33
	体 育 専 門 学 群				3			16					8	3	30	16
	芸 術 専 門 学 群	24	8	3	1		4	147	5				11	8	211	45
	小 計	373	74	29	43		48	1568	28		3	115	91	2372		
大 学 院 生	教 育 研 究 科	17	6				1	17				2		43	10	
	人 文 社 会 科 学 研 究 科	36	10	14			1	179	38			6		284	29	
	人 間 総 合 科 学 研 究 科	25	11	3	1		10	136	15			7		208	47	
	生 命 環 境 科 学 研 究 科	47	7	3			3	133				24		217	36	
	数 理 物 質 科 学 研 究 科	25	16	4				93		1		15		154	22	
	シ ス テ ム 情 報 工 学 研 究 科	68	12	1	2		1	204						288	38	
	図 書 館 情 報 メ デ ィ ア 研 究 科	2	1					80					4		87	12
	ビ ジ ネ ス 科 学 研 究 科															
	グ ロ ー バ ル 教 育 院							3							3	1
	小 計	220	63	25	3		16	844	53	1		58		1284		
研 究 生							3							3	1	
そ の 他	9	9					19					16		53	8	
合 計	602	146	54	46		64	2434	81	1	3	189	91	3712	682		

実 数	113	28	13	19		11	318	13		2	79	86	682
-----	-----	----	----	----	--	----	-----	----	--	---	----	----	-----

(*1) UPI (University Personality Inventory) とは、大学生の心の健康調査をいう。

UPI 呼出面接結果

実施総数 2268 名

呼び出し者数 366 名

UPI 面接結果	人
相談継続	18
本人希望せず等	39
問題なし	43
合計	100

(保健管理センター)

区 分		修学	進路	友人関係	異性	結婚	家庭	情緒性格	人生問題	経済	住居	その他の問題	面接* (1)	UPI呼出	合計	実数
学 群	人文・文化学群	78	16	11	4		14	409	11			18	10	571	94	
	社会・国際学群	15	1		3		2	85	1			6	7	120	31	
	人間学群	17	2	1	10		13	136			1	16	8	204	46	
	生命環境学群	30	4	1	2		5	136	8		1	11	16	214	62	
	理工学群	79	21	2	14		5	299	3		1	37	16	477	84	
	情報学群	22	11	5	5			141				3	16	203	43	
	医学群	44	2				1	65				5	6	123	32	
	体育専門学群				3			16				8	3	30	16	
	芸術専門学群	24	8	3	1		4	145	5			11	8	209	45	
小 計	309	65	23	42		44	1432	28		3	115	90	2151			
大学院生	教育研究科	17	6				1	14				2		40	10	
	人文社会科学研究科	36	10	14			1	179	38			6		284	29	
	人間総合科学研究科	25	11	3	1		10	135	15			4		204	47	
	生命環境科学研究科	47	7	3			3	132				22		214	34	
	数理解物質科学研究科	25	16	4				93		1		15		154	22	
	システム情報工学研究科	67	11	1	2		1	204						286	36	
	図書館情報メディア研究科	2						23				1		26	5	
	ビジネス科学研究科													0		
	グローバル教育院							3						3	1	
小 計	219	61	25	3	0	16	783	53	1		50		1211			
研 究 生							3						3	1		
そ の 他	9	9					3				16		37	7		
合 計	537	135	48	45		60	2221	81	1	3	181	90	3402	645		
実 数	106	25	11	18		11	297	13		2	77	85	645			

(*1) UPI (University Personality Inventory) とは、大学生の心の健康調査をいう。

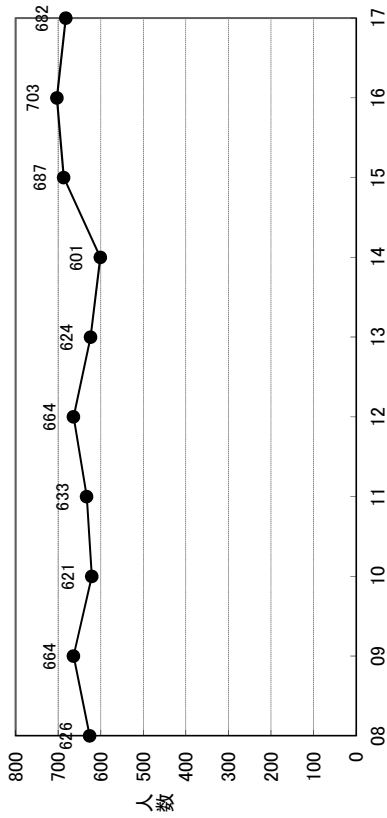
(春日での学生相談)

区 分		修学	進路	友人関係	異性	結婚	家庭	情緒性格	人生問題	経済	住居	その他の問題	面接* (1)	UPI呼出	合計	実数
学 群	人文・文化学群			1				13						14	2	
	社会・国際学群							9						9	1	
	人間学群															
	生命環境学群							1					1	2	1	
	理工学群	1						20						21	4	
	情報学群	63	9	5	1		4	86						168	16	
	医学群							5						5	1	
	体育専門学群															
	芸術専門学群							2						2		
小 計	64	9	6	1		4	136					1	221			
大学院生	教育研究科							3						3		
	人文社会科学研究科													0		
	人間総合科学研究科							1				3		4		
	生命環境科学研究科							1				2		3	2	
	数理解物質科学研究科													0		
	システム情報工学研究科	1	1											2	2	
	図書館情報メディア研究科			1				57				3		61	7	
	ビジネス科学研究科													0		
	グローバル教育院													0		
小 計	1	2					61				8		73			
研 究 生													0			
そ の 他							16						16	1		
合 計	65	11	6	1		4	213				8	1	310	37		
実 数	7	3	2	1			21				2	1	37			

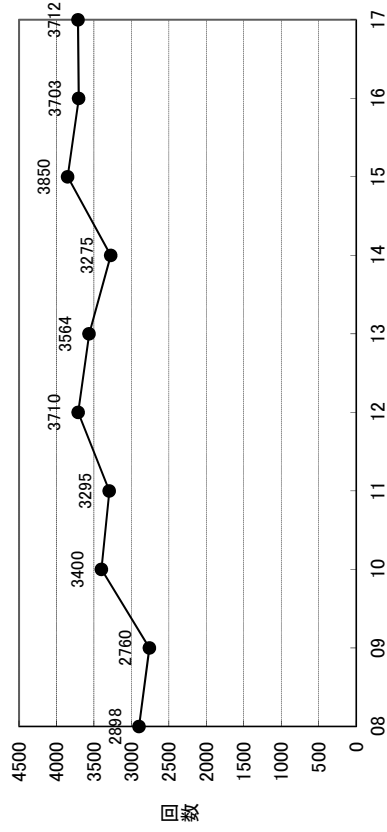
(*1) UPI (University Personality Inventory) とは、大学生の心の健康調査をいう。

ii) 学生相談室利用者の年次推移

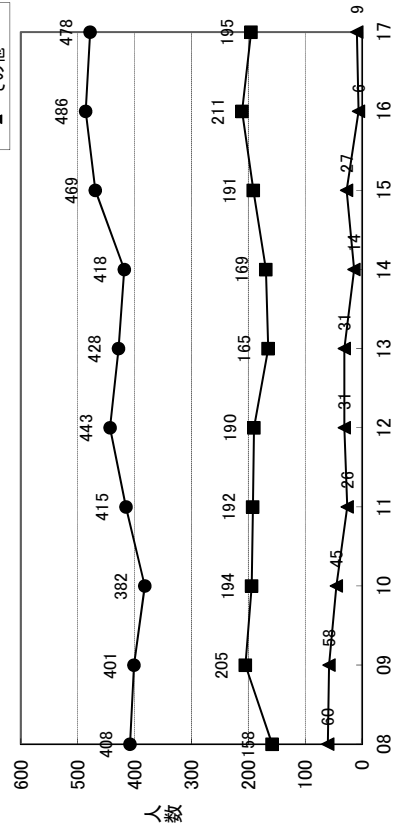
利用者実数(学生相談室)



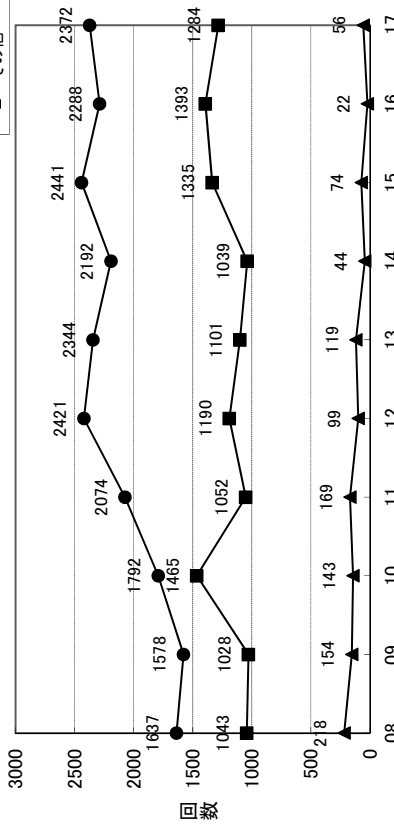
延べ面接等回数(学生相談室)



所属別利用者実数(学生相談室)



所属別延べ面接等回数(学生相談室)



iii-1) 総合相談窓口内訳（スチューデントプラザ相談窓口と春日相談窓口の合計）

	学生本人	保護者・家族	友人・知人	教職員	その他	総計
相 談						
進路	30	4		1	1	36
修学	125	41		23		190
情緒・性格	53	1		2		56
対人関係	66	2	3	8		79
症状・疾患	56	5	1	5		67
学生生活	26	1		1		28
事件・事故対応		2				2
自殺関係	7		1	3		11
ハラスメント	9	1		1		11
各種問い合わせ				1		1
その他	7	1	3	2		13
	379	58	8	47	1	494
問 い 合 わ せ						
進路	8			2		10
修学	16	4		2		22
情緒・性格						
対人関係	2					2
症状・疾患				1		1
学生生活	25	5				30
事件・事故対応	2					2
自殺関係						
ハラスメント	1					1
各種問い合わせ	121	17	1	5	8	152
その他	2			1	1	4
	177	26	1	11	9	224
苦情要望						
進路						
修学	3					3
情緒・性格						
対人関係						
症状・疾患						
学生生活						
事件・事故対応						
自殺関係						
ハラスメント					1	1
各種問い合わせ						
その他						
	3				1	4
そ の 他						
進路	1			1		2
修学	1					1
情緒・性格						
対人関係			1			1
症状・疾患				2		2
学生生活						
事件・事故対応	1			1		2
自殺関係				2		2
ハラスメント						
各種問い合わせ						
その他	4			2		6
	7		1	8		16
総 計	566	84	10	66	11	738

iii-2) 総合相談窓口内訳（スチューデントプラザ相談窓口利用状況）

	学生本人	保護者・家族	友人・知人	教職員	その他	総計
相 談						
進路	25	4		1	1	31
修学	95	34		16		146
情緒・性格	51	1		2		54
対人関係	57	2	3	8		70
症状・疾患	42	4	1	1		48
学生生活	22	1				23
事件・事故対応		2				2
自殺関係	7		1			8
ハラスメント	7	1				8
各種問い合わせ				1		1
その他	7	1	3	1		12
	313	50	8	30	1	403
問 い 合 わ せ						
進路	8			1		9
修学	15	2		2		19
情緒・性格						
対人関係	2					2
症状・疾患						
学生生活	24	5				29
事件・事故対応	2					2
自殺関係						
ハラスメント	1					1
各種問い合わせ	111	13	1	4	7	136
その他	1			1	1	3
	164	20	1	8	8	201
苦情要望						
進路						
修学	3					3
情緒・性格						
対人関係						
症状・疾患						
学生生活						
事件・事故対応						
自殺関係						
ハラスメント					1	1
各種問い合わせ						
その他						
	3				1	4
そ の 他						
進路	1			1		2
修学	1					1
情緒・性格						
対人関係			1			1
症状・疾患				1		1
学生生活						
事件・事故対応	1			1		2
自殺関係				2		2
ハラスメント						
各種問い合わせ						
その他	4			2		6
	7		1	7		15
総 計	487	70	10	45	10	623

iii-3) 総合相談窓口内訳（春日相談窓口利用状況）

	学生本人	保護者・家族	友人・知人	教職員	その他	総計
相 談						
進路	5					5
修学	30	7		7		44
情緒・性格	2					2
対人関係	9					9
症状・疾患	14	1		4		19
学生生活	4			1		5
事件・事故対応						
自殺関係				3		3
ハラスメント	2			1		3
各種問い合わせ						
その他				1		1
	66	8		17		91
問 い 合 わ せ						
進路				1		1
修学	1	2				3
情緒・性格						
対人関係						
症状・疾患				1		1
学生生活	1					1
事件・事故対応						
自殺関係						
ハラスメント						
各種問い合わせ	10	4		1	1	16
その他	1					1
	13	6		3	1	23
苦情要望						
進路						
修学						
情緒・性格						
対人関係						
症状・疾患						
学生生活						
事件・事故対応						
自殺関係						
ハラスメント						
各種問い合わせ						
その他						
そ の 他						
進路						
修学						
情緒・性格						
対人関係						
症状・疾患				1		1
学生生活						
事件・事故対応						
自殺関係						
ハラスメント						
各種問い合わせ						
その他						
				1		1
総 計	79	14		21	1	115

3) 精神衛生相談利用状況

i) 精神衛生相談内訳

		区 分	延数	実数
学 群 学 生	人文・文化学群	人 文 学 類	283	32
		比 較 文 化 学 類	72	12
		日 本 語 ・ 日 本 文 化 学 類	114	8
	社会・国際学群	社 会 学 類	97	12
		国 際 総 合 学 類	41	15
	人間学類	教 育 学 類	15	2
		心 理 学 類	104	12
		障 害 科 学 学 類	72	15
	生命環境学群	生 物 学 類	159	21
		生 物 資 源 学 類	127	22
		地 球 学 類	10	5
	理工学群	数 学 類	22	2
		物 理 学 類	32	8
		化 学 類	43	7
		応 用 理 工 学 類	57	12
		工 学 シ ス テ ム 学 類	225	29
		社 会 工 学 類	91	8
	情報学群	情 報 科 学 類	136	17
		情 報 メ デ ィ ア 創 成 学 類	35	9
		知 識 情 報 ・ 図 書 館 学 類	131	18
	医学群	医 学 類	141	23
看 護 学 類		58	9	
医 療 科 学 類		26	1	
	体 育 専 門 学 群	39	9	
	芸 術 専 門 学 群	198	27	
小 計			2,328	335

		区 分	延数	実数
大学院生	修 士 (前 期) 課 程		1,051	147
	博 士 (後 期) 課 程		444	57
	小 計		1,495	204
研 究 生			51	13
そ の 他			19	10
合 計			3,893	562

ii) ICD-10分類による学生の診断別件数（実数）と副診断

器質性精神障害

F06	1	
計	1	

統合失調症，統合失調症型障害および妄想性障害

副診断

F20	24		統合失調症
F21	13	84(1)	
F28	1		
計	38		

気分障害

副診断

F31	25	42(1), 84(2), 90(1)	躁うつ病
F32	77	42(1), 60(1), 84(5), 90(2), 98(1), G40(1)	うつ病
F33	14	90(2)	反復性うつ病
F34	13		持続性気分障害
F38	8	84(2)	
計	137		

神経症性障害，ストレス関連障害および身体表現性障害

副診断

F40	15	84(2)	社会不安障害など
F41	23	50(2), 84(2), 90(3)	パニック障害など
F42	9	40(1), 84(2)	
F43	191	13(1), 31(1), 34(1), 51(3), 60(1), 63(1), 84(17), 90(8), G40(1)	適応障害
F44	4	60(1)	
F45	7	90(1)	
F48	3		
計	252		

生理的障害および身体的要因に関連した行動症候群

副診断

F50	12	32(1), 41(1), 60(1), 90(1)	摂食障害
F51	39	43(2), 84(4), 94(1)	非器質性睡眠障害
F54	2	38(1), 90(1)	
計	53		

成人の人格および行動の障害

F60	4	84(1)
F63	1	
F64	2	43(1)
計	7	

心理的発達の障害

副診断

F80	1		広汎性発達障害
F84	36	21(1), 31(1), 42(1), 43(5), 51(1), 90(6)	
計	37		

小児<児童>期及び青年期に通常発症する行動及び情緒の障害

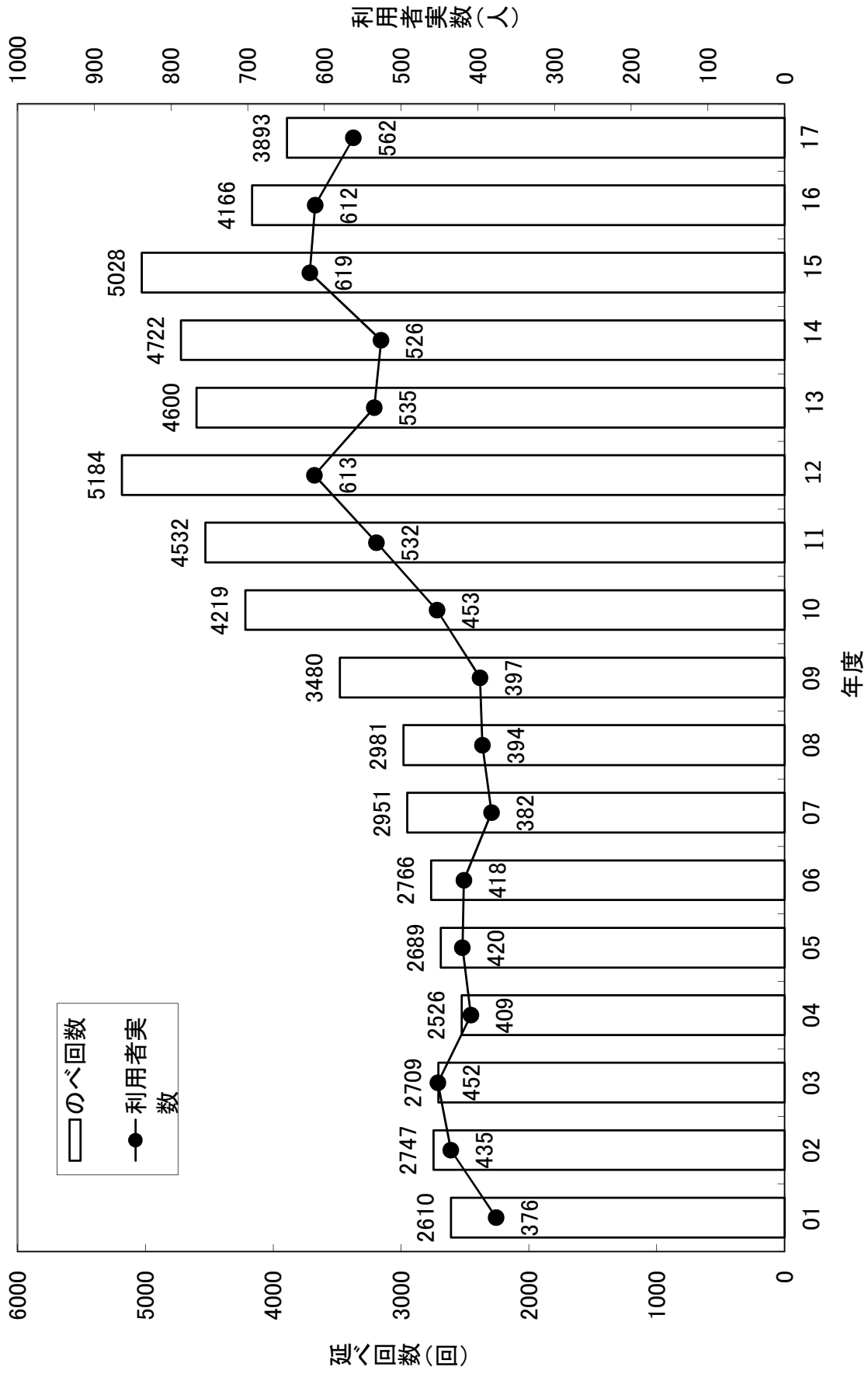
副診断

F90	19	32(2), 34(2), 38(2), 84(2)	多動性障害
F94	2	43(1)	
F98	2	33(1)	
計	23		

その他

てんかん	2	
問題なし	12	
計	14	

iii) 精神衛生相談利用者の年次推移（延数と実数）



10. そ の 他

1) 予防接種者

i) B型肝炎ワクチン接種

対 象	接 種 数
医 学 類	489
看 護 学 類	291
医 療 科 学 類	140
計	920

注：B型肝炎ワクチン接種は、医学群の学生で希望者に実施した。1～3回目の延数である。

ii) インフルエンザワクチン接種

対 象	接 種 数
医 学 類	226
看 護 学 類	133
医 療 科 学 類	37
計	396

注：インフルエンザワクチン接種は、医学群の学生で、実習上接種の必要な希望者に実施した。

2) HBs抗原抗体検査

対 象	HBs抗原検査			HBs抗体検査		
	陽性	陰性	計	陽性	陰性	計
理療科教員養成施設学生	0	18	18	13	5	18
職 員	0	24	24	13	11	24
計	0	42	42	26	16	42

注：HBs抗原抗体検査は、理療科教員養成施設所属の職員と学生（新入生）が対象である。

3) 臨床検査実施数

月	血液	尿	心電図	合計
平成29年4月	12	3	1	16
5月	52	108	19	179
6月	38	7	32	77
7月	39	15	24	78
8月	8	5	1	14
9月	8	6	6	20
10月	4	8	0	12
11月	8	8	4	20
12月	4	4	2	10
平成30年1月	4	4	0	8
2月	6	12	4	22
3月	2	4	1	7
合計	185	184	94	463

4) エックス線写真撮影件数及び枚数

区分	学 生						職 員						合 計	
	一般撮影		デンタル		計		胸 部 その他		デンタル		計			
月	件数	枚数	件数	枚数	件数	枚数	件数	枚数	件数	枚数	件数	枚数	件数	枚数
4	45	2	14	125	59	127	2	0	0	0	2	0	61	127
5	119	9	28	36	147	45	3	0	2	2	5	2	152	47
6	94	8	28	42	122	50	2	0	0	0	2	0	124	50
7	140	5	30	43	170	48	6	0	1	1	7	1	177	49
8	73	8	14	20	87	28	4	0	0	0	4	0	91	28
9	79	4	23	38	102	42	2	0	0	0	2	0	104	42
10	117	5	21	25	138	30	2	0	0	0	2	0	140	30
11	115	10	19	29	134	39	1	0	0	0	1	0	135	39
12	95	3	20	30	115	33	3	0	0	0	3	0	118	33
1	81	8	33	46	114	54	5	0	0	0	5	0	119	54
2	70	3	20	28	90	31	3	0	0	0	3	0	93	31
3	70	5	23	30	93	35	6	0	1	2	7	2	100	37
合計	1,098	70	273	492	1,371	562	39	0	4	5	43	5	1,414	567
学生定期健康診断撮影 12,247 名														
職員定期健康診断撮影 5,717 名														

5) 処方箋発行数

	処方箋 (枚)
平成29年4月	339
5月	619
6月	526
7月	598
8月	321
9月	368
10月	661
11月	553
12月	609
平成30年1月	588
2月	435
3月	349
合 計	5,966

6) 外部診療機関紹介状況

区分 \ 科分類	内科	整形外科	歯科	耳鼻科	眼科	婦人科	皮膚科	泌尿器科	救急外来	その他	合計
学 群 生	87	29	22	2	0	3	3	5	6	48	205
大 学 院 生	52	12	32	1	0	3	6	2	1	16	125
研 究 生	6	0	8	2	1	2	0	1	4	2	26
学 生 合 計	145	41	62	5	1	8	9	8	11	66	356
職 員・そ の 他	10	2	1	0	0	0	0	1	1	4	19
合 計	155	43	63	5	1	8	9	9	12	70	375

注) 区分のその他とは、本学校内における公開講座、合宿の参加者、見学者などである。

7) 健康診断証明書等発行数

	センター発行	自動証明書発行 装置発行	合計
学 群 生	896		896
大 学 院 生	185		185
研 究 生	41		41
職 員	62		62
そ の 他	3		3
合 計	1,187	0	1,187

自動証明発行装置は、定型の書式で、学群生・大学院生のみ発行。

センター発行は、定型外および、再検査中など、一部、自動発行不可の者など。

その他は、学振・特別研究員等である。

8) 救護活動

No.	実施期間	行事等名称	救護班設置場所	利用者数
1	平成29年 4/7	入学式	保健管理センター	0
2	5/13・14	春季スポーツデー	保健管理センター	4
3	7/4・5	大学院推薦入学試験（7月期）	保健管理センター	0
4	7/15・16	H29年度 帰国生徒特別入試（10月入学） H30年度 帰国生徒特別入試（4月入学）	保健管理センター	0
5	8/5・6・11	大学説明会	保健管理センター・ 春日キャンパス救護室	4
6	8/22-29 （土日除く6日間）	大学院入学試験（8月期）	保健管理センター	0
7	8/29・30	ヒューマンバイオロジー学位プログラム （HBP）8月期入試	保健管理センター	0
8	8/26, 9/2・3・24, 11/11, 2/4	東京キャンパス大学院入試	東京キャンパス救護室	0
9	10/2-13 （土日除く9日間）	H29年度 学群AC入試・国際科学オリ ンピック特別入試・国際バカロレア特別 入試	保健管理センター	0
10	10/12-20 （土日除く7日間）	大学院入学試験（10月期）	保健管理センター	0
11	11/3-5	学園祭	保健管理センター	0
12	11/18・19	秋季スポーツデー	保健管理センター	3
13	11/29・30	推薦入試	各入試会場救護室	1
14	平成30年 1/13・14	大学入試センター試験	各入試会場救護室	10
15	1/23・24	ヒューマンバイオロジー学位プログラム （HBP）1月期入試	保健管理センター	0
16	1/30～2/2	大学院入試（2月期）	保健管理センター	0
17	2/1	エンパワーメント情報学プログラム 2月期一般入試・履修者特別選抜	保健管理センター	0
18	2/25・26	個別学力検査等（前期日程） 学群編入学試験	各入試会場救護室	12
19	3/12	個別学力検査等（後期日程）	各入試会場救護室	1
20	3/23	卒業式	保健管理センター	1
計				36

9) 救急箱貸出数

	救急箱 (個)
平成29年4月	19
5月	19
6月	0
7月	3
8月	4
9月	2
10月	1
11月	28
12月	6
平成30年1月	9
2月	9
3月	9
合 計	109

11. 学内広報・研修活動

1) 広報活動

“STUDENTS” —保健管理センターだより—

No.673 (平成29年4月6日発行)

保健管理センターの利用案内

太刀川 弘和

No.674 (平成29年6月22日発行)

なんだか苦手なあの人とどう付き合うか

～自らを深め広げる人間関係のヒント

田中 崇恵

No.676 (平成29年10月12日発行)

キャンパスライフにおけるケガの初期対応

船山 徹

No.677 (平成30年1月18日発行)

上手な睡眠のとり方

白鳥 裕貴

『紫峰の風』 —学生相談室から—

第4号 (平成29年5月発行)

大学生の保護者になるということ

杉江 征

第5号 (平成29年7月発行)

気がすまない

石井 映美

第6号 (平成29年12月発行)

気持ちを伝える “I” メッセージ

慶野 遥香

第7号 (平成30年2月発行)

顔と顔

太刀川 弘和

2) 研修活動

(1) 第40回自己開発のための合宿セミナー（エンカウンター合宿セミナー）

1. 期 日 平成29年7月13日（木）～14日（金）
2. 場 所 つくば市豊里ゆかりの森
3. 参加人数 10名（学生6名，教員4名）
4. 担 当 杉江征・田附あえか・田中崇恵・慶野遥香
5. 日 程 表

日時	7月13日（木）	日時	7月14日（金）
		7:00	起床
		8:00	朝食（杉江・田中） 荷物整理・チェックアウト
		9:00	Sessi on 5 わたしの姿 （田中）
		10:30	Sessi on 6 夢のような体験 （田附）
		12:00	昼食 （田附・慶野）
12:30	集合（保健管理センター学生相談室） タクシーで移動～ゆかりの森へ		
13:00	開会式・オリエンテーション（杉江）	13:00	Sessi on 7
13:30	Sessi on 1 自己紹介ワーク （田中）		別れの花束 （杉江）
14:00	Sessi on 2 フィンガーペインティング （田中）	14:30	シェアリング
16:00	チェックイン	15:30	閉会式・写真撮影 （杉江）
16:15	Sessi on 3 Outdoor Cooking （田附）	16:30	ゆかりの森出発～大学へ
		17:00	大学到着・解散式
19:15	自由時間・入浴		
20:00	Sessi on 4 ほっとシート （杉江）		
23:00			

(2) キャンパスライフセミナー

第1回 自分らしいメイクアップを学ぼう～専門家によるビューティ講座

6. 対 象 筑波大生
7. 期 日 平成29年11月15日（水）13：45～15：10
8. 場 所 大学会館マルチメディアルーム
9. 参加人数 23名
10. 担 当 田附あえか
11. 内 容 専門家から直接アドバイスを受けながら、自分らしさを最大限に活かせるメイクアップを学ぶことで、自分の身体や個性に向き合い、より自信をもって人と接することができるようになることをめざした講座を開催した。定員を超える応募があり、盛況のうちに終了し、参加者の満足度も非常に高かった。

第2回 ピア・サポーターのためのコミュニケーションワーク

(T-act承認企画「ピアサポートでつながろう！みんなで助け合えるキャンパスを目指して」との連携企画)

1. 対 象 筑波大生
2. 期 日 平成29年11月22日（水）13：30～16：30
3. 場 所 人間系学系棟B301
4. 参加人数 9名
5. 担 当 田中崇恵
6. 内 容 コミュニケーションの苦手な学生は多く、そのような相談が学生相談に持ち込まれることも少なくない。本企画では、話の聞き方・話し方について心理学の観点から講義を行い、それを踏まえて実際にワークを行うことで、参加者の他者との関わりのハードルを下げるとともに、自分らしいコミュニケーションの感覚を養うことを目指した。参加者も多角的な視点に気づき、充実した内容だったとの感想が寄せられた。

(3) 学群教育改革推進事業「学生のピアサポート活動の実践に向けた取り組み」の活動

①ピア・サポーター制度導入の先進校への視察

・立命館大学への視察

1. 期 日 平成30年2月8日（木）
2. 場 所 立命館大学
3. 担 当 杉江征・田附あえか・田中崇恵・慶野遥香
(学生生活課より生井栄部長・金井浩紫課長)

4. 内 容 立命館大学においては、学生相談室・ラーニングサポート・スチューデントサクセスプログラム等において幅広くピア・サポートの活用や育成が行われていた。また、学生オフィス学生支援コーディネーターを中心に、各組織が有機的な連携・協働を可能とする仕組みが作られていた。

・京都大学への視察

1. 期 日 平成30年2月9日（金）
2. 場 所 京都大学
3. 担 当 杉江征・田附あえか・田中崇恵・慶野遥香
(学生生活課より生井栄部長・金井浩紫課長)
4. 内 容 京都大学では障害学生支援学生・カウンセリング・キャリアサポートの学生支援組織を学生総合支援センターとして組織し、センター長他2名の教職員から京都大学での学生支援部署の改革について意見交換を行った。各部署の充実した施設、取り組みについて学んだ。

・名古屋大学への視察

1. 期 日 平成30年3月19日（月）
2. 場 所 名古屋大学
3. 担 当 田中崇恵（学生ピア・サポーター4名）
4. 内 容 筑波大学の他、東京大学・東京工業大学のピア・サポーターと教員で視察を行った。名古屋大ピア・サポーターが活動する図書館内のブースを見学したほか、相談業務・相談ポスト・心の処方箋など独自の活動について説明を受け、それぞれの大学の活動実践の報告や困りごとの共有などを行った。

②ぴあのわ2018（全国大学ピアサポーター合同研修会）への参加

1. 対 象 全国大学ピアサポーター合同研修会への参加者
2. (筑波大学より有志の学生が参加)
3. 期 日 平成30年3月17（土）～18日（日）
4. 場 所 名古屋工業大学
5. 参加人数 筑波大学より7名
6. 担 当 杉江征・田中崇恵・田附あえか・慶野遥香
7. 内 容 1日目は各大学のピア活動の体験ワークショップに参加し、特色あるピア活動に実際に触れ、分科会にて各大学の教職員との意見交換を行った。2日目はピア活動を行う学生及びそれを支える教員が行うトークセッション

を聞き、ピア・サポート活動を行う上での苦勞と工夫について学んだ。

③ピア・サポートのための講演会「学生による支え合いの理念と実践」

1. 対 象 筑波大生
2. 期 日 平成30年2月27日（水）14：00～17：00
3. 場 所 2B208・209
4. 参加人数 20名
5. 担 当 杉江征・田中崇恵・慶野遥香
6. 内 容 すでに実践的なピア・サポート活動を行っている東京大学学生相談ネットワーク本部ピアサポートルーム室長・高野明准教授を講師として招き、講演をいただいた。本学へのピア・サポート制度の始動に伴い、ピア・サポート活動における基礎知識や倫理的問題などについてワークを通して考える会となった。

(4) フレッシュマンセミナーへの出講

総合科目I「フレッシュマンセミナー」への出講依頼があった学類・クラスに対し、学生相談室の教員が学生のメンタルヘルスや学内相談機関の利用の仕方などについて出講授業を行っている。平成29年度の実施日時と担当者は以下の通りであった。

実施日時	担当学類・クラス	担当教員
4月21日（金）8：45～9：25	人間学群（3学類合同）	田中崇恵
5月1日（月）12：15～13：30	生物学類	田中崇恵
5月12日（金）16：35～17：50	物理学類	杉江征
5月17日（水）12：15～13：30	知識情報・図書館学類	杉江征
5月17日（水）12：15～13：30	工学システム学類（1~3クラス）	田中崇恵
5月17日（水）13：45～15：00	社会学類	田附あえか
5月24日（水）13：45～15：00	生物資源学類	田附あえか
5月29日（月）15：15～16：30	工学システム学類（4~6クラス）	田中崇恵
6月5日（月）13：45～15：00	人文学類	田附あえか
6月12日（月）13：45～15：00	比較文化学類	田附あえか
6月16日（金）15：15～16：05	芸術専門学群	田附あえか
6月16日（金）16：35～18：00	化学類	田中崇恵
6月19日（月）13：45～15：00	日本語・日本語文化学類	田附あえか
7月21日（金）16：35～18：00	化学類（春Cクラスセミナー）	杉江征

医療安全管理教育研修

第1回 診療の安全に関する研修【連携・協力・社会貢献】

1. 対 象 筑波大学附属病院職員等
2. 期 日 平成29年9月（DVD上映複数回開催）
3. 場 所 保健管理センター 会議室
4. 参加人数 25名
5. 担 当 附属病院臨床医療管理部外
6. 内 容
 - ・ 医療事故防止に関する基本的事項
 - ・ 講演 医療事故当事者のメンタルケア・ピアサポート
 - ・ 医薬品の禁忌・適応外使用の取り扱い
 - ・ 新規医療機器購入時の研修予定者リスト提出のお願い
 - ・ 感染対策としてのゾーニング

第2回 診療の安全に関する研修【医療事故防止マニュアル第7版-JCI受審に向けて】

1. 対 象 筑波大学附属病院職員等
2. 期 日 平成30年1月～2月（DVD上映複数回開催）
3. 場 所 保健管理センター 会議室
4. 参加人数 22名
5. 担 当 附属病院臨床医療管理部外
6. 内 容
 - ・ 医療事故防止に関する基本的事項

12. 研 究 業 績

<原著論文>

1. Kuroda A, Hegab AE, Jingtao G, Yamashita S, Hizawa N, Sakamoto T, Yamada H, Suzuki S, Ishii M, Namkoong H, Asakura T, Ozaki M, Yasuda H, Hamamoto J, Kagawa S, Soejima K, Betsuyaku T: Effects of the common polymorphism in the human aldehyde dehydrogenase 2 (ALDH2) gene on the lung. *Respir Res.* 18(1):69, 2017.
2. Aiba M, Tachikawa H, Fukuoka Y, Lebowitz A, Shiratori Y, Doi N, Matsui Y: Standardization of Brief Inventory of Social Support Exchange Network (BISSSEN) in Japan. *Psychiatry Res.* 253:364-372, 2017.
3. Taguchi T, Tachikawa H, Nemoto K, Suzuki M, Nagano T, Tachibana R, Nishimura M, Arai T: Major depressive disorder discrimination using vocal acoustic features. *J Affect Disord.* 225:214-220, 2017.
4. Nakamine S, Tachikawa H, Aiba M, Takahashi S, Noguchi H, Takahashi H, Tamiya N.: Changes in social capital and depressive states of middle-aged adults in Japan. *PLoS One.* 12(12):e0189112, 2017.
5. Kaneshiro T, Yoshida K, Sekiguchi Y, Tada H, Kuroki K, Kuga K, Kamiyama Y, Suzuki H, Takeishi Y, Aonuma K: Crucial role of pulmonary vein firing as an initiator of typical atrial flutter: Evidence of a close relationship between atrial fibrillation and typical atrial flutter. *Journal of arrhythmia* 33(2):86-91, 2017.
6. Komine S, Akiyama K, Warabi E, Oh S, Kuga K, Ishige K, Togashi S, Yanagawa T, Shoda J: Exercise training enhances in vivo clearance of endotoxin and attenuates inflammatory responses by potentiating Kupffer cell phagocytosis. *Scientific Reports* 20;7(1):11977, 2017.
7. Oh S, Komine S, Warabi E, Akiyama K, Ishii A, Ishige K, Mizokami Y, Kuga K, Horie M, Miwa Y, Iwawaki T, Yamamoto M, Shoda J: Nuclear factor (erythroid derived 2)-like 2 activation increases exercise endurance capacity via redox modulation in skeletal muscles. *Scientific Reports* 10:7(1):12902, 2017.
8. Nakajima M, Kawaguchi M, Ota K, Fujita J, Matsukura S, Huang SK, Mor-ishima Y, Ishii Y, Satoh H, Sakamoto T, Hizawa N: IL-17F induces IL-6 via TAK1-NFκB pathway in airway smooth muscle cells. *Immun Inflamm Dis.* 5(2):124-131, 2017.
9. Funayama T, Tsukanishi T: Primary extradural peripheral primitive neuroectodermal tumor (extraskelatal Ewing's sarcoma) arising from the sacral spinal nerve root: A case report and review of the literature. *J Spine Neurosurg.* 6:2-5, 2017.
10. Funayama T, Tsukanishi T, Abe T, Kumagai H, Izawa S, Noguchi H, Fujii K, Shibao Y, Koda M, Yamazaki M: Prediction of Treatment Resistance in Con-servative Treatment of Osteoporotic Vertebral Fractures Using Lateral Plain Dynamic Loading Radiographs. *J Spine.* 6:1-6, 2017.
11. Fujii K, Abe T, Funayama T, Noguchi H, Nakayama K, Miura K, Nagashima K, Kumagai H and Yamazaki M: Lateral lumbar interbody fusion for ossification of the yellow ligament (OYL) in the lumbar spine: first reported case. *Case Rep Orthop.* 2017:3404319, 2017.
12. Miura K, Kadone H, Koda M, Abe T, Endo H, Murakami H, Doita M, Kumagai H, Nagashima K, Fujii K,

- Noguchi H, Funayama T, Kawamoto H, Sankai Y, Yamazaki M: The hybrid assisted limb (HAL) for Care Support, a motion as-sisting robot providing exoskeletal lumbar support, can potentially reduce lumbar load in repetitive snow-shoveling movements. *J Clin Neurosci*. S0967-5868 (17):31978-1, 2017.
13. Miura K, Kadone H, Koda M, Kumagai H, Nagashima K, Fujii K, Noguchi H, Funayama T, Abe T, Furuya T, Yamazaki M: Three-dimensional gait analysis reveals dynamic alignment change in a patient with dropped head syndrome: A case report. *J Clin Neurosci*. S0967-5868 (17):31103-7, 2017.
 14. Ishii T, Tachikawa H, Shiratori Y, Hori T, Aiba M, Kuga K, Arai T: What kinds of factors affect the academic outcomes of university students with mental dis-orders?: A retrospective study based on medical records. *Asian J Psychiatry*. 32 (2):67-72, 2018.
 15. Nakajima M, Kawaguchi M, Matsuyama M, Ota K, Fujita J, Matsukura S, Huang SK, Morishima Y, Ishii Y, Satoh H, Sakamoto T, Hizawa N: Transcription Elongation Factor P-TEFb Is Involved in IL-17F Signaling in Airway Smooth Muscle Cells. *Int Arch Allergy Immunol*. 176 (2):83-90, 2018.
 16. 石井映美, 太刀川弘和, 白鳥裕貴, 新井哲明: 発達障害学生 of 精神科診療における特徴. *大学のメンタルヘルス* 1 (1):76-81, 2017.
 17. 太刀川弘和, 川島義高, 小田原俊成, 衛藤暢明, 河西千秋, 山田光彦: 大学生を対象とした日本の自殺予防研究に関する系統的レビュー. *CAMPUS HEALTH* 54 (2):186-191, 2017.
 18. 高橋あすみ, 太刀川弘和, 菅原大地, 石井映美, 白鳥裕貴, 前野貴美, 高屋敷明由美, 杉江 征, 新井哲明: 大学生向け自殺予防教育プログラム CAMPUS - 医学生に対する2つの演習の比較検討 -. *CUMPUUS HEALTH* 55 (1):175, 2017.
 19. 田中崇恵, 田附あえか, 慶野遥香, 杉江 征: 大学新入生における自殺念慮 (UPI25番) の経年変化の検討: 20年間の分析. *CUMPUUS HEALTH* 55 (1):383-385, 2017.
 20. 田附あえか, 田中崇恵, 慶野遥香, 杉江 征: 筑波大学における多元的相談窓口の有効性に関する検討: 連携機能の比較から. *CUMPUUS HEALTH* 55 (1):325-327, 2017.
 21. 白鳥裕貴, 太刀川弘和, 山田典子, 大塚敬士, 山形晃彦, 根本清貴, 妹尾栄一, 土井永史, 新井哲明: 縦列型精神科・身体科連携による自殺企図患者の企図後フォローアップ効果に関する予備的研究. *精神神経学雑誌*. 119 (4):227-237, 2017.
 22. 高橋 晶, 太刀川弘和, 根本清貴, 袖山紀子, 堀孝 文, 新井哲明, 高橋祥友: 茨城DPATができる前の活動, そして現在一常総市鬼怒川水害, 熊本地震の支援の経験を通じて-. *精神科救急* 20:49-54, 2017.
 23. 相羽美幸, 太刀川弘和, 仲嶺 真, 高橋 晶, 野口晴子, 高橋秀人, 田宮菜奈子: 中高年者縦断調査を用いたソーシャル・キャピタル指標の作成と妥当性・信頼性の検討. *日本公衆衛生雑誌* 64 (7):371-383, 2017.
 24. 飯島弘晃, 増子裕典, 金子美子, 金澤 潤, 北沢晴奈, 谷田貝洋平, 山田英恵, 坂本 透, 今野 哲, 西村正治, 檜澤伸之: ダニ抗原感作における TSLP 遺伝子と環境ダニ抗原量との相互作用に関する検討. *日本職業・環境アレルギー学会雑誌* 24 (2):25-33, 2017.
 25. 慶野遥香, 田中崇恵, 江上奈美子, 古川真由美, 川崎 隆, 高野 明: 学生相談機関における OQ-45 (Outcome Questionnaire-45) の利用可能性および実践的活用法の検討—初回来談学生のデー

- タとカウンセラーへのアンケートを通して一. 東京大学学生相談所紀要 25:13-21, 2017.
26. 船山 徹, 塚西敏則, 山崎正志: 骨粗鬆症性椎体骨折後遷延治癒に対する椎体採取骨髓血と一軸連通孔ハイドロキシアパタイト顆粒を用いた椎体形成術の試み. 整形外科 68:505-509, 2017.
 27. 船山 徹, 塚西敏則: 初診時単純X線動態撮影による椎体不安定性の定量評価に基づいた骨粗鬆症性椎体骨折の最適な治療法確立に向けた試み. 日農医誌 65:932-939, 2017.
 28. 船山 徹, 塚西敏則, 安部哲哉, 伊澤成郎, 柴尾洋介, 山崎正志: 高齢者(75歳以上)の骨粗鬆症性椎体骨折に対する椎体不安定性の定量評価に基づいた最適な治療アルゴリズムの確立に向けた試み. 別冊整形外科 72:120-123, 2017.
 29. 船山 徹, 安部哲哉, 塚西敏則, 柴尾洋介, 山崎正志: 新鮮骨粗鬆症性椎体骨折(OVF)に対する保存療法. 関節外科 36:125-134, 2017.
 30. 濱田和希, 船山 徹, 安部哲哉, 熊谷 洋, 野口裕史, 山崎正志: 椎骨動脈の走行異常を伴う環軸関節亜脱臼に対する一手術例. 関東整災誌 48:61-64, 2017.
 31. 小方陽介, 河野 衛, 上杉雅文, 安部哲哉, 船山 徹, 山崎正志: 頰椎後縦靭帯骨化症の術後に発症した好酸球増加症候群による神経障害の1例. 関東整災誌 48(1):7-11, 2017.
 32. 河野 衛, 安部哲哉, 長島克弥, 三浦紘世, 中山敬太, 藤井賢吾, 船山 徹, 竹内陽介, 坂根正孝, 山崎正志: 化膿性脊椎炎に対する経皮的内視鏡下椎間板切除術(PED)の治療成績. 臨床整形外科 52:385-389, 2017.
 33. 清水知明, 安部哲哉, 熊谷 洋, 長島克弥, 船山 徹, 山崎正志: 頰椎後方手術に際して椎孔周囲スクリューが有用であった2例. 東日本整災誌 29(1):37-40, 2017.
 34. 藤井賢吾, 安部哲哉, 久保田茂希, 船山 徹, 野口裕史, 山崎正志: 胸椎後縦靭帯骨化症に伴う重度脊髄障害に対する後方除圧固定術+ロボット治療. オルソタイムズ 11(2):2, 2017.
 35. 渡邊竜之介, 安部哲哉, 長島克弥, 野口裕史, 船山 徹, 山崎正志: 椎骨動脈の骨外・骨内走行異常の評価-上位頰椎および中下位頰椎疾患例の比較-. 整形外科 68:1041-1044, 2017.
 36. 菅原大地, 杉江 征: Loving-kindness meditationの研究動向と今後の発展. 筑波大学心理学研究 54:97-107, 2017.

<総説・その他>

1. 太刀川弘和: 保健管理センターだより「保健管理センター利用案内」. つくばスチューデントズ4月号:10, 2017.
2. 石井映美: 学生相談室から「気がすまない」. 紫峰の風第5号:2, 2017.
3. 田中崇恵: 学生相談(特集 私が心理臨床の仕事をする理由). 心理臨床の広場 10(2):39, 2018.
4. 慶野遥香: 学生相談室から「気持ちを伝える“I”メッセージ」. 紫峰の風第6号, 2017.
5. 太刀川弘和, 張賢徳: 自殺に傾く若者への対応に関する提言(日本自殺予防学会常務理事会)厚生労働省記者クラブ会見:12月7日, 2017.
6. 太刀川弘和: 学生相談室から「顔と顔」紫峰の風第7号, 2018.
7. 太刀川弘和: 第41回日本自殺予防学会総会を終えて:自殺予防のこれまで・これから. 心と社会:

49(1):52-59, 2018.

8. 太刀川弘和, 相羽誠聡: 東日本大震災の被災者・避難者のこころのケアニーズ啓発事業講演会 DVD「あれから7年こころの健康を守るために～福島から避難された皆様のための集い」. 平成29年度茨城県自殺対策モデル事業, 2018年3月.

<報告書>

1. 太刀川弘和, 高橋 晶, 袖山紀子, 相羽美幸, 佐藤晋爾: 東日本大震災の被災者・避難者のこころのケアニーズ啓発事業報告書. 平成29年度茨城県地域自殺対策モデル研究事業受託研究報告書, 2017.
2. 太刀川弘和, 高橋 晶, 福生泰久, 高木善史, 新井哲明: 過去4災害のDPAT活動の分析研究. 厚生労働省科学研究費補助金政策総合研究事業(精神障害分野)災害派遣精神医療チーム(DPAT)の機能強化に関する研究, 平成29年度総括・分担研究報告書, pp7-16, 2018.

<学会発表>

1. Kanazawa J, Masuko H, Kitazawa H, Yamada Y, Yatagai Y, Kaneko Y, Iijima H, Naito T, Saito T, Noguchi E, Konno S, Nishimura M, Hirota T, Tamari M, Sa-kamoto T, Hizawa N: Role of the CDHR3 Variant (Cys529→Tyr) in Early-Onset Adult Asthma in Japanese Populations. American Thoracic Society Conference 2017 (Washington, DC, USA), May, 2017.
2. Nakajima M, Kawaguchi M, Ota K, Fujita J, Matsukura S, Huang SK, Masuko H, Kiwamoto T, Matsuno Y, Morishima Y, Ishii Y, Satoh H, Sakamoto T, Hizawa N: IL-17F Induces IL-6 Via TAK1-NFkB Pathway in Airway Smooth Muscle Cells. American Thoracic Society Conference 2017 (Washington, DC, USA), May, 2017.
3. Fujii K, Abe T, Kubota S, Marushima A, Funayama T, Noguchi H, Miura K, Kawamoto H, Sankai Y, Yamazaki M: Combination of posterior decompression with instrumented fusion with robot therapy for severe myelopathy due to cervical and thoracic ossification of the posterior longitudinal ligament. 33th Annual Meeting of the Cervical Spine Research Society European Section (Salzburg, Austria), May, 2017.
4. Miura K, Kadone H, Kumagai H, Nagashima K, Nakayama K, Fujii K, Noguchi H, Funayama T, Abe T, Yamazaki M: Three-dimensional gait motion analysis in dropped head syndrome : a supporting tool for determining the cervical surgery procedure. 33rd Annual Meeting of the Cervical Spine Research Society European Section (Salzburg, Austria), May, 2017.
5. Nagashima K, Abe T, Kumagai H, Miura K, Fujii K, Noguchi H, Funayama T, Koda M, Mannouji C, Yamazaki M: Loosening and breakage of screws in long-segment posterior cervical fusion surgery. 33th CSRS ES (Salzburg, Austria), May, 2017.
6. Noguchi H, Abe T, Nagashima K, Funayama T, Kumagai H, Miura K, Fujii K, Kouda M, Furuya T, Yamazaki M: Feasibility of C2 pedicle screw insertion in posterior cervical spinal fusion surgeries. 8th Annual meeting of Cervical Spine Research Society –European Section (Salzburg, Austria), May, 2017.

7. Shimizu Y, Kadone H, Kubota S, Abe T, Funayama T, Marushima A, Ueno T, Hada Y, Yamazaki M: Possibility of voluntary elbow flexion in patients with complete quadriplegia with C4 cervical cord injury using Hybrid Assistive Limb (HAL®) technology. The XXVI Congress of the International Society of Biomechanics (Brisbane, Australia), July, 2017.
8. Yamada M, Kawashima Y, Odawara T, Eto N, Kawanishi C, Tachikawa H: Suicide prevention in college and university students: a systematic review. The 29th World Congress of the International Association for Suicide Prevention (Kuching, Malaysia), July, 2017.
9. Sugawara D, Sugie M: Positive emotional traits predict positive spontaneous thought: A month-long study. International Society for Research on Emotion (St. Louis, USA), July, 2017.
10. Abe T, Fujii K, Kubota S, Kadone H, Miura K, Nagashima K, Noguchi H, Funayama T, Kumagai H, Koda M, Yamazaki M: Efficacy of gait training using HAL after surgery for severe myelopathy due to thoracic ossification of the posterior longitudinal ligament. 19th Deutsch-Japanische Society Symposium (Berlin, Germany), November, 2017.
11. 金澤 潤, 増子裕典, 北沢晴奈, 山田英恵, 谷田貝洋平, 金子美子, 飯島弘晃, 内藤隆志, 齋藤武文, 今野 哲, 西村正治, 広田朝光, 玉利真由美, 坂本 透, 檜澤伸之: 日本人集団におけるCDHR3遺伝子多型が若年発症喘息に与える影響. 第57回日本呼吸器学会学術講演会(東京), 4月, 2017.
12. 中嶋真之, 太田恭子, 藤田純一, 川口未央, 松倉 聡, 塩澤利博, 中澤健介, 増子裕典, 際本拓未, 松野洋輔, 森島祐子, 佐藤浩昭, 坂本 透, 檜澤伸之: IL-17Fによる気道平滑筋細胞からのIL-6発現とその分子機構. 第57回日本呼吸器学会学術講演会(東京), 4月, 2017.
13. 塩澤利博, 會田有香, 渡辺裕子, 中澤健介, 増子裕典, 小川良子, 際本拓未, 松野洋輔, 川口未央, 森島祐子, 坂本 透, 家城隆次, 関根郁夫, 檜澤伸之: 小細胞肺癌のsensitive relapseにおける2次治療の検討. 第57回日本呼吸器学会学術講演会(東京), 4月, 2017.
14. 船山 徹, 塚西敏則, 安部哲哉, 藤井賢吾, 中山敬太, 野口裕史, 山崎正志: 骨粗鬆症性椎体骨折における立位-仰臥位単純X線側面動態撮影による椎体不安定性評価とCT・MRIによる保存治療抵抗所見との関連性. 第47回日本脊椎脊髄病学会(札幌), 4月, 2017.
15. 船山 徹, 塚西敏則, 安部哲哉, 藤井賢吾, 中山敬太, 野口裕史, 山崎正志: 骨粗鬆症性椎体骨折に対する経皮的椎体形成術(BKP)における術後早期の矯正損失と術前椎体不安定性との関連性. 第47回日本脊椎脊髄病学会(札幌), 4月, 2017.
16. 久保田茂希, 安部哲哉, 藤井賢吾, 船山 徹, 野口裕史, 三浦紘世, 門根秀樹, 清水如代, 羽田康司, 山崎正志: 胸椎OPLLに伴う重度脊髄障害に対する後方除圧固定術+ロボット歩行訓練による新たな治療. 第46回日本脊椎脊髄病学会(札幌), 4月, 2017.
17. 久保田茂希, 安部哲哉, 藤井賢吾, 船山 徹, 野口裕史, 中山敬太, 三浦紘世, 門根秀樹, 清水如代, 羽田康司, 山崎正志: 慢性期脊髄障害に対するロボットスーツHALを用いた機能回復治療の効果の解析. 第46回日本脊椎脊髄病学会(札幌), 4月, 2017.
18. 國府田正雄, 安部哲哉, 船山 徹, 野口裕史, 山崎正志, 古矢丈雄, 飯島 靖, 齊藤淳哉, 北村充広, 折田純久, 稲毛一秀, 大鳥精司: 重度頸椎後弯変形に対する矯正固定手術: 前後合併法.

第46回日本脊椎脊髄病学会（札幌），4月，2017.

19. G-SPIRIT研究グループ，國府田正雄，安部哲哉，船山 徹，野口裕史，山崎正志，古矢丈雄，飯島 靖，齊藤淳哉，北村充広，折田純久，稲毛一秀，大鳥精司，花岡英紀：医師主導治験：急性脊髄損傷に対する顆粒球コロニー刺激因子を用いたランダム化・二重盲検試験. 第46回日本脊椎脊髄病学会（札幌），4月，2017.
20. 國府田正雄，安部哲哉，船山 徹，野口裕史，山崎正志，古矢丈雄，飯島 靖，齊藤淳哉，北村充広，折田純久，稲毛一秀，大鳥精司：第8頸椎神経根障害による下垂指症例に対する治療法の検討. 第46回日本脊椎脊髄病学会（札幌），4月，2017.
21. 柴尾洋介，安部哲哉，竹内陽介，酒井晋介，長島克弥，天野国明，野口裕史，船山 徹，山崎正志：骨粗鬆症性椎体骨折の入院安静を含む保存治療の臨床成績. 第46回日本脊椎脊髄病学会（札幌），4月，2017.
22. 野口裕史，安部哲哉，長島 克弥，船山 徹，三浦紘世，藤井賢吾，熊谷 洋，中山敬太，國府田正雄，古矢丈雄，山崎正志：椎後方instrumentation手術症例におけるC2椎弓根スクリューの刺入可能性に関する検討. 第46回日本脊椎脊髄病学会学術集会（札幌），4月，2017.
23. 三浦紘世，門根秀樹，熊谷 洋，長島克弥，藤井賢吾，野口裕史，船山 徹，安部哲哉，山崎正志：腰椎変性後側弯症に対する3次元動作解析と筋活動計測を同期させた歩行解析－術式選択の補助手段として－. 第46回日本脊椎脊髄病学会（札幌），4月，2017.
24. 三浦紘世，門根秀樹，安部哲哉，熊谷 洋，長島克弥，藤井賢吾，野口裕史，船山 徹，羽田康司，遠藤寛興，村上秀樹，土井田稔，山崎正志：ショベリング除雪反復動作におけるロボットスーツHALの腰部負荷軽減効果. 第46回日本脊椎脊髄病学会（札幌），4月，2017.
25. 三浦紘世，安部哲哉，熊谷 洋，河野衛，江藤文彦，長島克弥，藤井賢吾，野口裕史，船山 徹，山崎正志：当科における初診時原発不明脊椎腫瘍の治療戦略とその臨床成績. 第46回日本脊椎脊髄病学会（札幌），4月，2017.
26. 田中崇恵，古川真由美，川崎隆，慶野遥香，江上奈美子，榎本真理子，太田裕一，杉江 征，池田忠義，高野明：学生相談における初回面接の語りの分類—学生の主観的な気持ちに着目して—. 日本学生相談学会第35回大会（中部大学），5月，2017.
27. 川崎 隆，慶野遥香，江上奈美子，田中崇恵，古川真由美，榎本真理子，池田忠義，杉江 征，太田裕一，高野明：自由記述からみる大学生の「成長」と「充実」. 日本学生相談学会第35回大会（中部大学），5月，2017.
28. 船山 徹，塚西敏則，安部哲哉，藤井賢吾，中山敬太，野口裕史，山崎正志：骨粗鬆症性椎体骨折における初診時の椎体不安定性とCT・MRIによる保存治療抵抗所見との関連性. 第90回日本整形外科学会（仙台），5月，2017.
29. 船山 徹，塚西敏則，安部哲哉，藤井賢吾，中山敬太，野口裕史，山崎正志：骨粗鬆症性椎体骨折に対する経皮的椎体形成術（BKP）における術後早期の矯正損失と術前椎体不安定性との関連性. 第90回日本整形外科学会（仙台），5月，2017.
30. 久保田茂希，安部哲哉，藤井賢吾，船山 徹，野口裕史，中山敬太，三浦紘世，門根秀樹，清水如代，羽田康司，山崎正志：胸椎OPLLに伴う重度脊髄障害に対する後方除圧固定術＋ロボッ

- ト歩行訓練による新たな治療. 第90回日本整形外科学会総会 (仙台), 5月, 2017.
31. 久保田茂希, 安部哲哉, 藤井賢吾, 船山 徹, 野口裕史, 中山敬太, 三浦紘世, 門根秀樹, 清水如代, 羽田康司, 山崎正志: 慢性期脊髄障害に対するロボットスーツHALを用いた機能回復治療の効果の解析. 第90回日本整形外科学会総会 (仙台), 5月, 2017.
 32. 國府田正雄, 安部哲哉, 船山 徹, 野口裕史, 山崎正志, 古矢丈雄, 飯島 靖, 斉藤淳哉, 北村充広, 折田純久, 稲毛一秀, 大鳥精司: 第8頸椎神経根障害による下垂指症例に対する治療法の検討. 第90回日本整形外科学会総会 (仙台), 5月, 2017.
 33. 國府田正雄, 安部哲哉, 船山 徹, 野口裕史, 山崎正志, 古矢丈雄, 飯島 靖, 斉藤淳哉, 北村充広, 折田純久, 稲毛一秀, 大鳥精司, 花岡英紀: 急性脊髄損傷に対する顆粒球コロニー刺激因子 神経保護療法: 医師主導治験. 第90回日本整形外科学会総会 (仙台), 5月, 2017.
 34. 柴尾洋介, 安部哲哉, 竹内陽介, 酒井晋介, 長島克弥, 天野国明, 野口裕史, 船山 徹, 山崎正志: 骨粗鬆症性椎体骨折の初期入院安静を含む保存治療の臨床成績. 第90回日本整形外科学会総会 (仙台), 5月, 2017.
 35. 野口裕史, 安部哲哉, 長島克弥, 船山 徹, 三浦紘世, 藤井賢吾, 熊谷 洋, 中山敬太, 國府田正雄, 古矢丈雄, 山崎正志: 頸椎後方instrumentation手術症例におけるC2椎弓根スクリュー刺入の実現可能性に関する評価. 第90回日本整形外科学会総会 (仙台), 5月, 2017.
 36. 三浦紘世, 門根秀樹, 安部哲哉, 熊谷 洋, 長島克弥, 藤井賢吾, 野口裕史, 船山 徹, 羽田康司, 國府田正雄, 遠藤寛興, 村上秀樹, 土井田稔, 山崎正志: ショベリング除雪反復動作におけるロボットスーツHALの腰部負荷軽減効果. 第90回日本整形外科学会総会 (仙台), 5月, 2017.
 37. 三浦紘世, 門根秀樹, 熊谷 洋, 長島克弥, 藤井賢吾, 野口裕史, 船山 徹, 安部哲哉, 山崎正志: 腰椎変性後側弯症に対する3次元動作解析と筋活動計測を同期させた歩行解析 - 術式選択の補助手段として -. 第90回日本整形外科学会総会 (仙台), 5月, 2017.
 38. 北沢晴奈, 増子裕典, 金澤 潤, 谷田貝洋平, 金子美子, 飯島弘晃, 内藤隆志, 坂本 透, 檜澤伸之: 喘息患者における血清高感度CRPの検討. 第66回日本アレルギー学会学術大会 (東京), 6月, 2017.
 39. 金澤 潤, 増子裕典, 北沢晴奈, 谷田貝洋平, 飯島弘晃, 内藤隆志, 野口佳子, 広田朝光, 玉利真由美, 坂本 透, 檜澤伸之: 日本人集団におけるTYRO3遺伝子多型がアレルギー疾患に与える影響. 第66回日本アレルギー学会学術大会 (東京), 6月, 2017.
 40. 中嶋真之, 太田恭子, 藤田純一, 川口未央, 松倉 聡, 増子裕典, 際本拓未, 松野洋輔, 森島祐子, 佐藤浩昭, 坂本 透, 檜澤伸之: 気道平滑筋細胞におけるIL-17FからのIL-6発現と分子機構. 第66回日本アレルギー学会学術大会 (東京), 6月, 2017.
 41. 清水如代, 門根秀樹, 久保田茂希, 安部哲哉, 船山 徹, 丸島愛樹, 羽田康司, 山崎正志: Voluntary elbow flexion is possible in patients with complete quad-riplegia due to C4 cervical cord injury using Hybrid Assistive Limb (HAL®) technology. 第18回日独整形災害学外科学会 (福岡), 6月, 2017.
 42. 岡本雄太, 太刀川弘和, 高橋 晶, 根本清貴, 堀 孝文, 新井哲明: 被災後メンタルヘルスを

- 決める要因は何か-常総市水害における GIS 空間データ分析-. 第16回日本トラウマティック・ストレス学会(東京), 6月, 2017.
43. 太刀川弘和, 岡本雄太, 根本清貴, 高橋 晶, 堀 孝文, 新井哲明: 茨城県常総市水害1年後の抑うつ, 外傷後ストレス症状の変化. 第113回日本精神神経学会学術総会(名古屋), 6月, 2017.
44. 渡部衣美, 根本清貴, 小島真奈, 白鳥裕貴, 村田彩貴子, 塚田恵鯉子, 井出政行, 松崎朝樹, 東 晋二, 鈴木利人, 濱田洋実, 佐藤豊実, 新井哲明: 精神疾患合併妊婦の周産期における病状悪化リスクの検討. 第113回日本精神神経学会学術総会(名古屋), 6月, 2017.
45. 菅原大地, Eugene Tee, 長峯聖人, Ramis Tamilselvan, 宮川裕基, 杉江 征: 混合感情の文化比較-認知的評価理論の観点から-. 日本感情心理学学会第25回大会(京都), 6月, 2017.
46. 丸谷俊之, 太刀川弘和: 残虐性の耐えられない軽さ-アラン・ロブ＝グリエの映画-. 第113回日本病跡学会学術総会(京都), 7月, 2017.
47. 久賀圭祐: 『大学における心臓検診』(シンポジウム11(III-S11)『学校心臓検診今後の問題』). 第53回日本小児循環器学会総会・学術集会(浜松), 7月, 2017.
48. 熊谷 洋, 船山 徹, 池田麗美, 三浦鉦世, 藤井賢吾, 野口裕史, 安部哲哉, 山崎正志: 妊娠を合併した多発性骨髄腫の硬膜外病変により対麻痺を呈した1例. 第50回日本整形外科学会骨・軟部腫瘍学術集会(東京), 7月, 2017.
49. 辰村正紀, 江藤文彦, 野口裕史, 船山 徹, 安部哲哉, 國府田正雄, 山崎正志: 隣接椎間障害及びimplant failureにより多数回手術を要した透析性破壊性椎体炎の一例. 第29回ちば脊椎カンファレンス(千葉), 7月, 2017.
50. 松田峰史, 中嶋真之, 會田有香, 田地広明, 吉田和史, 塩澤利博, 中澤健介, 増子裕典, 際本拓未, 松野洋輔, 川口未央, 森島祐子, 坂本 透, 家城隆次, 関根郁夫, 檜澤伸之: 重篤な肝障害を呈し, 化学療法が奏功したPS不良小細胞肺癌の1例. 第225回日本呼吸器学会関東地方会(東京), 7月, 2017.
51. 長島克弥, 安部哲哉, 熊谷 洋, 三浦鉦世, 野口裕史, 船山 徹, 國府田正雄, 山崎正志: 胸椎OPLLによる急性対麻痺に対する前方除圧術後に生じた脊髄ヘルニアの1例. 第50回 脊椎外科同好会(岡山), 8月, 2017.
52. 野口裕史, 安部哲哉, 船山 徹, 藤井賢吾, 三浦鉦世, 長島克弥, 熊谷 洋, 國府田正雄, 山崎正志: 胸腰椎移行部椎体骨折に対するX-CORE2を用いた前後再建術の周術期合併症. 第6回 Japan Association of Spine surgeons with Ambition(東京), 8月, 2017.
53. 翠川晴彦, 太刀川弘和, 新井哲明, 高橋秀人, 田宮菜奈子: 国民生活基礎調査に基づいた高齢者の飲酒実態の把握. 第52回日本アルコール・アディクション医学会学術総会(横浜), 9月, 2017.
54. 遠藤 剛, 往西 誠, 高濱浩輔, 太刀川弘和: 茨城県の精神科一般救急医療相談窓口を経て治療介入につながった高齢者自殺関連行動の2例. 第41回日本自殺予防学会総会(つくば), 9月, 2017.
55. 袖山紀子, 太刀川弘和, 高橋 晶, 相羽美幸, 新井哲明, 高橋祥友: 東日本大震災5年後の福

- 島県からの避難者におけるメンタルヘルス. 第41回日本自殺予防学会総会 (つくば), 9月, 2017.
56. 岡本雄太, 太刀川弘和, 池田雄太郎, 麻植啓介, 根本清貴, 新井哲明:「死にたい」ツイートの内容分析. 第41回日本自殺予防学会総会 (つくば), 9月, 2017.
57. 相羽美幸, 太刀川弘和, Adam Lebowitz:対人関係欲求尺度 (INQ) と自殺潜在能力尺度 (ACSS) の妥当性の検討. 第41回日本自殺予防学会総会 (つくば), 9月, 2017.
58. 山田典子, 太刀川弘和, 白鳥裕貴, 矢口知絵, 大塚敬士, 袖山紀子, 根本清貴, 妹尾栄一, 土井永史, 新井哲明: 介入支援を拒否する自殺未遂者の臨床的特徴および拒否理由の検討. 第41回日本自殺予防学会総会 (つくば), 9月, 2017.
59. 矢口知絵, 山田典子, 小杉祥子, 大塚敬士, 白鳥裕貴, 根本清貴, 石川和宏, 袖山紀子, 山形晃彦, 太刀川弘和, 妹尾栄一, 土井永史: 血液データを用いた自殺企図のリスク評価. 第41回日本自殺予防学会総会 (つくば), 9月, 2017.
60. 白鳥裕貴, 太刀川弘和, 妹尾栄一, 土井永史, 新井哲明: コロンビア自殺重症度評価尺度 (Columbia Suicide Severity Rating Scale; C-SSRS) 日本語版の妥当性・信頼性の検討. 第41回日本自殺予防学会総会 (つくば), 9月, 2017.
61. 翠川 晴彦, 太刀川弘和, 相羽美幸, 遠藤剛, 白鳥裕貴, 新井哲明: 援助要請能力を高めるには一般的信頼や良好な人間関係の構築が重要である. 第41回日本自殺予防学会総会 (つくば), 9月, 2017.
62. 高橋あすみ, 太刀川弘和, 菅原大地, 石井映美, 白鳥裕貴, 杉江 征, 新井哲明: 大学生向け自殺予防教育プログラム作成の試みーセルフ・スティグマの低下に焦点を当ててー. 第41回日本自殺予防学会総会 (つくば), 9月, 2017.
63. 佐々木恵美, 太刀川弘和, 平山 暁: 視覚・聴覚障害学生に対する自殺予防活動について. 第41回日本自殺予防学会総会 (つくば), 9月, 2017.
64. 石川和宏, 根本清貴, 白庭 等, 山田典子, 矢口知絵, 白鳥裕貴, 袖山紀子, 太刀川弘和, 妹尾栄一, 土井永史: 自殺企図後のうつ病患者における気質と安静時脳機能ネットワーク. 第41回日本自殺予防学会総会 (つくば), 9月, 2017.
65. 白鳥裕貴: 病院連携と自殺予防. 第41回日本自殺予防学会 (つくば), 9月, 2017.
66. 石井映美, 太刀川弘和, 白鳥裕貴, 佐々木恵美, 新井哲明: 発達障害学生における自殺関連事象の特徴. 第41回日本自殺予防学会 (つくば), 9月, 2017.
67. 井出政行, 宮内英里, 太刀川弘和, 根本清貴, 新井哲明, 川崎真弘: 経頭蓋磁気刺激誘発脳波 (TMS-EEG) による電気けいれん療法前後の同期性の評価. 第39回日本生物学的精神医学会 (札幌) 9月, 2017.
68. 長島克弥, 安部哲哉, 柴尾洋介, 熊谷 洋, 三浦紘世, 俣木健太郎, 野口裕史, 船山 徹, 國府田正雄, 山崎正志: ステロイド性骨粗鬆症性椎体骨折に対する保存治療の臨床成績ー原発性骨粗鬆症例と比較してー. 第3回北関東脊椎外科研究会 (日光), 9月, 2017.
69. 菅原大地, 杉江 征: 日本語版PPSの信頼性・妥当性の検討. 日本健康心理学会第30回記念大会 (東京), 9月, 2017.

70. 岡部楓子, 菅原大地, 杉江 征: ゆるしとゆるせなさの特性と個人特性の検討. 日本パーソナリティ心理学会第26回大会(山形), 9月, 2017.
71. 菅原大地, 有光興記, 杉江 征: 日本語版DPESの作成と信頼性・妥当性の検討. 日本心理学会第81回大会(久留米), 9月, 2017.
72. 岡部楓子, 菅原大地, 岡田眞ノ典, 堀田 亮, 山田圭介, 佐々木恵理, 中谷隆子, 杉江 征: 復職支援における自律訓練法の有効性-共起ネットワーク分析による質的な検討-. 日本自律訓練学会第40回大会(鹿児島), 9月, 2017.
73. 菅原大地, 岡部楓子, 岡田眞ノ典, 堀田 亮, 山田圭介, 佐々木恵理, 中谷隆子, 杉江 征: 自律訓練法によってもたらされる認知傾向の変容-大学生・大学院生を対象としたパイロット・スタディ. 日本行動療法学会第43回大会(新潟), 9月, 2017.
74. 久保田茂希, 安部哲哉, 清水如代, 門根秀樹, 藤井賢吾, 船山 徹, 野口裕史, 三浦紘世, 羽田康司, 菅谷 久, 吉岡友和, 山海嘉之, 山崎正志: 頸・胸椎後縦靭帯骨化症に伴う重度歩行障害に対するロボットスーツHALによる新たな治療. 第32回日本整形外科学会基礎学術集会(沖縄), 10月, 2017.
75. 久保田茂希, 安部哲哉, 清水如代, 門根秀樹, 藤井賢吾, 船山 徹, 野口裕史, 三浦紘世, 羽田康司, 菅谷 久, 吉岡友和, 山海嘉之, 山崎正志: 慢性期脊髄障害に対するロボットスーツHALを用いた機能回復治療. 第32回日本整形外科学会基礎学術集会(沖縄), 10月, 2017.
76. 熊谷 洋, 船山 徹, 牧原武史, 野口裕史, 山崎正志: 気孔構造の異なる β -リン酸3カルシウム人工骨内における骨新生と材料吸収の比較. 第32回日本整形外科学会基礎学術集会(沖縄), 10月, 2017.
77. 野口裕史, 船山 徹, 安部哲哉, 熊谷 洋, 塚西敏則, 国府田正雄, 山崎正志: ヤギ長期埋植試験での高気孔率高連通性ハイドロキシアパタイト椎弓スペーサーの吸収及び変形に関する放射線学的/組織学的解析. 第32回日本整形外科学会基礎学術集会(沖縄), 10月, 2017.
78. 三浦紘世, 門根秀樹, 熊谷 洋, 長島克弥, 俣木健太郎, 藤井賢吾, 野口裕史, 船山 徹, 安部哲哉, 国府田正雄, 山崎正志: 腰椎変性後側弯症に対する3次元動作解析と筋活動計測を同期させた歩行解析-術式選択の補助手段として-. 第32回日本整形外科学会基礎学術集会(沖縄), 10月, 2017.
79. 三浦紘世, 門根秀樹, 熊谷 洋, 長島克弥, 俣木健太郎, 藤井賢吾, 野口裕史, 船山 徹, 安部哲哉, 羽田康司, 遠藤寛興, 村上秀樹, 土井田稔, 山崎正志: ショベリング除雪反復動作におけるロボットスーツHALの腰部負荷軽減効果. 第32回日本整形外科学会基礎学術集会(沖縄), 10月, 2017.
80. 船山 徹, 安部哲哉, 野口裕史, 藤井賢吾, 三浦紘世, 熊谷 洋, 長島克弥, 国府田正雄, 山崎正志: 胸腰椎移行部の骨脆弱性椎体圧壊に対するXLIF corpectomyの導入経験~小皮切にこだわらない側方椎体置換術~. 第26日本脊椎インストゥルメンテーション学会(金沢), 10月, 2017.
81. 熊谷 洋, 安部哲哉, 長島克弥, 三浦紘世, 野口裕史, 船山 徹, 国府田正雄, 山崎正志: 配向連通孔 β -TCPを用いた側方腰椎椎体間固定術における椎体間骨癒合の検討. 第26回日本脊椎

インストゥルメンテーション学会（金沢），10月，2017.

82. 國府田正雄，安部哲哉，野口裕史，船山 徹，三浦紘世，熊谷 洋，長島克弥，山崎正志，古矢丈雄，飯島 靖，齊藤淳哉，北村充広，折田純久，稲毛一秀，大鳥精司：胸椎後縦靱帯骨化症に対する後方除圧固定術の神経症状回復過程ならびに固定後弯角変化. 第26回日本脊椎インストゥルメンテーション学会（金沢），10月，2017.
83. 長島克弥，安部哲哉，柴尾洋介，熊谷 洋，三浦紘世，俣木健太朗，野口裕史，船山 徹，國府田正雄，山崎正志：頸椎椎弓形成術を併用した後頭骨頸椎後方固定術の術後アライメント変化. 第26回日本脊椎インストゥルメンテーション学会（金沢），10月，2017.
84. 野口裕史，安部哲哉，長島克弥，熊谷 洋，三浦紘世，藤井賢吾，船山 徹，國府田正雄，山崎正志：後頭骨頸椎後方固定術における固定範囲の違いによる implant failure の検討. 第26回日本脊椎インストゥルメンテーション学会（金沢），10月，2017.
85. 野口裕史，安部哲哉，長島克弥，熊谷 洋，三浦紘世，藤井賢吾，船山 徹，國府田正雄，山崎正志：頸椎長範囲後方固定術及び後頭骨頸椎後方固定術における implant failure の検討. 第26回日本脊椎インストゥルメンテーション学会（金沢），10月，2017.
86. 三浦紘世，熊谷 洋，河野 衛，江藤文彦，長島克弥，俣木健太朗，藤井賢吾，野口裕史，船山 徹，安部哲哉，國府田正雄，山崎正志：当科における初診時原発不明脊椎腫瘍の治療戦略とその臨床成績. 第26回日本脊椎インストゥルメンテーション学会（金沢），10月，2017.
87. 三浦紘世，門根秀樹，熊谷 洋，長島克弥，俣木健太朗，藤井賢吾，野口裕史，船山 徹，安部哲哉，國府田正雄，山崎正志：首下がりに対する三次元歩行動作解析を用いた矢状面アライメントの動的評価. 第26回日本脊椎インストゥルメンテーション学会（金沢），10月，2017.
88. 船山 徹，塚西敏則，安部哲哉，熊谷洋，長島克弥，野口裕史，國府田正雄，山崎正志：骨粗鬆症性椎体骨折に対する初診時の立位-仰臥位単純X線動態撮影による新しい保存治療抵抗性評価法. 第19回日本骨粗鬆症学会（大阪），10月，2017.
89. 相羽美幸，太刀川弘和，袖山紀子，高橋 晶：東日本大震災5年後の被災者の精神的健康と心的外傷後成長. 日本社会心理学会第58回大会（広島），10月，2017.
90. 太刀川弘和，高橋晶，福生泰久，高木善史，新井哲明，渡 路子：DPAT活動における災害急性期の精神症状の特徴-過去4災害のDMHISSデータから-. 第25回日本精神科救急学会学術総会（金沢），11月，2017.
91. 福生泰久，太刀川弘和，高橋 晶，高木善史，新井哲明，渡 路子：被災地における精神科医療チーム活動の比較検討～東日本大震災と熊本地震～. 第25回日本精神科救急学会学術総会（金沢），11月，2017.
92. 高橋 晶，太刀川弘和，福生泰久，高木善史，新井哲明，渡 路子：DPAT活動における，派遣数のピークと予後予測について. 第25回日本精神科救急学会学術総会（金沢），11月，2017.
93. 袖山紀子，太刀川弘和，高橋 晶，相羽美幸，新井哲明，高橋祥友：東日本大震災5年後の福島県からの避難者におけるメンタルヘルス. 第66回茨城精神医学集団会（水戸），11月，2017.
94. 太刀川弘和，袖山紀子，相羽美幸，高橋 晶，新井哲明：東日本大震災5年後のメンタルヘルス：北茨城市民，神栖市民，福島避難者の比較. 第66回茨城精神医学集団会（水戸），11月，2017.

95. 岡本雄太, 太刀川弘和, 高橋 晶, 根本清貴, 堀 孝文, 新井哲明: 常総市水害被災住民に対する自宅訪問活動. 第66回茨城精神医学集団会 (水戸), 11月, 2017.
96. 遠藤 剛, 往西 誠, 高濱浩輔, 西村文吾, 太田深秀, 根本清貴, 太刀川弘和, 新井哲明: 右中耳癌への陽子線治療後に逸脱行為や易怒性が悪化し, 入院を要した高齢者の一例. 第66回茨城精神医学集団会 (水戸), 11月, 2017.
97. 佐々木恵美, 吉田富貴子, 太刀川弘和, 平山 暁: 視覚障害学生への自殺予防活動の試み. 第54回全国保健管理研究集会 (沖縄), 11月, 2017.
98. 田中崇恵, 田附あえか, 慶野遥香, 杉江 征: 大学新入生における自殺念慮 (UPI25番) の経年変化の検討: 20年間の分析. 第55回全国大学保健管理研究集会 (沖縄), 11月, 2017.
99. 田附あえか, 田中崇恵, 慶野遥香, 杉江 征: 筑波大学における多元的相談窓口の有効性に関する検討: 連携機能の比較から. 第55回全国大学保健管理研究集会 (沖縄), 11月, 2017.
100. 高橋あすみ, 太刀川弘和, 菅原大地, 石井映美, 白鳥裕貴, 前野貴美, 高屋敷明由美, 杉江 征, 新井哲明: 大学生向け自殺予防教育プログラムCAMPUS - 医学生に対する2つの演習の比較検討 -. 第55回全国保健管理研究集会 (沖縄), 11月, 2017.
101. 北岡有香, 森島祐子, 田口真人, 重政理恵, 會田有香, 吉田和史, 塩澤利博, 中澤健介, 増子裕典, 小川良子, 際本拓未, 松野洋輔, 川口未央, 坂本 透, 家城隆次, 千葉 滋, 野口雅之, 檜澤伸之: 悪性リンパ腫と同時に発見され, 化学療法後に増悪したサルコイドーシスの1例. 第227回日本呼吸器学会関東地方会 (東京), 11月, 2017.
102. 熊谷 洋, 船山 徹, 長島克弥, 三浦紘世, 俣木健太郎, 安部哲哉, 國府田正雄, 山崎正志: 多発性骨髄腫の硬膜外病変により対麻痺を呈した2例. 第52回日本脊髄障害医学会 (千葉), 11月, 2017.
103. 國府田正雄, 久保田茂希, 安部哲哉, 船山 徹, 野口裕史, 三浦紘世, 長島克弥, 熊谷 洋, 山崎正志: 重度脊髄障害患者さんに対するHybrid Assisted Limb (HAL®) を用いた歩行リハビリテーション. 第52回日本脊髄障害医学会 (千葉), 11月, 2017.
104. 長島さやか, 安部哲哉, 船山 徹, 野口裕史, 國府田正雄, 山崎正志: 転倒後に頸髄症が増悪した脳性麻痺の2手術経験. 第52回日本脊髄障害医学会 (千葉), 11月, 2017.
105. 三浦紘世, 門根秀樹, 船山 徹, 安部哲哉, 國府田正雄, 山崎正志: 首下がりに対する三次元歩行動作解析を用いた矢状面アライメントの動的評価. 第52回日本脊髄障害医学会 (千葉), 11月, 2017.
106. 野口裕史, 安部哲哉, 船山 徹, 藤井賢吾, 三浦紘世, 長島克弥, 熊谷 洋, 國府田正雄, 山崎正志: 骨粗鬆症性椎体骨折偽関節に対する側方進入による椎体置換術. 第12回千葉・筑波脊椎手術手技講習会 (幕張), 11月, 2017.
107. 國府田正雄, 安部哲哉, 野口裕史, 船山 徹, 三浦紘世, 熊谷 洋, 長島克弥, 俣木健太郎, 山崎正志: 頸椎後縦靭帯骨化症に対する術式選択. 第19回茨城県脊髄・脊椎研究会 (つくば), 11月, 2017.
108. 船山 徹, 三浦紘世, 俣木健太郎, 安部哲哉, 野口裕史, 熊谷 洋, 長島克弥, 國府田正雄, 山崎正志: 術後早期に固定頭側端骨折を来したパーキンソン病に伴う腰椎椎体圧潰の1例. 第1

回千葉・茨城Vidyoセミナー（つくば），12月，2017.

- 109.熊谷 洋，安部哲哉，長島克弥，三浦紘世，野口裕史，船山 徹，國府田正雄，山崎正志：配向連通孔 β -TCPを用いた側方腰椎椎体間固定術における椎体間骨癒合の検討. 第37回整形外科バイオマテリアル研究会（岡山），12月，2017.
- 110.野口裕史，船山 徹，安部哲哉，熊谷 洋，牧原武史，國府田正雄，山崎正志：両開き式配向連通孔性HA椎弓スペーサーの経時的な骨癒合，転位及び変形に関する調査. 第37回整形外科バイオマテリアル研究会（岡山），12月，2017.
- 111.野口裕史，船山 徹，飯島 靖，安部哲哉，熊谷 洋，古矢丈雄，國府田正雄，山崎正志：腓骨採取後補填材料としての配向連通 β -リン酸3カルシウム人工骨 アフィノス®の使用経験－アパセラム®使用群との比較－. 第37回整形外科バイオマテリアル研究会（岡山），12月，2017.
- 112.船山 徹，野口裕史，安部哲哉，三浦紘世，長島克弥，熊谷 洋，俣木健太朗，國府田正雄，山崎正志：立位/坐位での症状悪化が特徴的だった胸椎椎間板ヘルニアの1例. 第19回圧迫性脊髄症研究会（東京），2月，2018.
- 113.船山 徹：脊椎後方骨移植における自家骨併用症例. 第3回アフィノス臨床使用評価会議（つくば），2月，2018.
- 114.平井健太，吉田和史，塩澤利博，川島 海，嶋田貴文，田口真人，重政理恵，松山政史，中澤健介，増子裕典，小川良子，際本拓未，松野洋輔，森島祐子，坂本 透，関根郁夫，家城隆次，檜澤伸之：抗菌薬不応性の肺炎像を呈し，気管支内視鏡で浸潤性粘液性腺癌を診断した1例. 第212回茨城県内科学会，3月，2018.

<講演会>

1. 太刀川弘和，石井映美，白鳥裕貴：医学生のメンタルケア. 平成29年度筑波大学医学類教員更新研修会，1月，2017.
2. 杉江 征：聴くということ. 茨城いのちの電話第32期生養成講座（つくば），4月，2017.
3. 太刀川弘和：大学生の自殺予防. 南山大学社会倫理研究プラットフォーム（学生の自殺問題と未遂者支援に係るヒアリング）（名古屋），5月，2017.
4. 太刀川弘和：プライマリケア医のためのうつ病講座-糖尿病-身体疾患との関連を踏まえて-. 土浦女性医師会（つくば），6月，2017.
5. 石井映美：筑波大学保健管理センターにおける双極性障害治療について. つくば学術講演会（つくば），7月，2017.
6. 坂本 透：Supporting your health. Special Information Seminar. Health Services for Foreigners in Tsukuba.（つくば），7月，2017.
7. 太刀川弘和：若者の自殺の予防と対策. 平成29年度茨城県ゲートキーパー指導者研修会（水戸），8月，2017.
8. 杉江 征：傾聴スキルの習得と保護者との良好な関わり方. 平成29年度第1回茨城県訪問型家庭教育支援員研修会（水戸），8月，2017.
9. 杉江 征：いのちの電話の相談員になるということ. 茨城いのちの電話第33期生養成講座（つくば），9月，2017.

- くば), 8月, 2017.
10. 坂本 透:知っていますか? タバコの実態. 平成29年度がん予防・検診講習会(つくば), 9月, 2017.
 11. 船山 徹:骨粗鬆症性椎体骨折の治療～薬物療法を含めて～. リウマチと骨粗鬆症フォーラム(つくば), 9月, 2017.
 12. 杉江 征:メンタルヘルスケア技法(リラクゼーション技法)ー自律訓練法ー. 中央労働災害防止協会平成30年度第4回心理相談専門研修(東京), 9月, 2017.
 13. 太刀川弘和:つながりからみた自殺予防の過去・現在・未来. 第41回日本自殺予防学会総会【大会長講演】(つくば), 9月, 2017.
 14. 太刀川弘和:若者の自殺の予防と対策. 平成29年度笠間市自殺予防ゲートキーパー養成研修会(笠間), 10月, 2017.
 15. 太刀川弘和:水害から2年・・・災害からこころの健康を守るには～いつ起こるかわからない災害に備えて～. 平成29年度常総市市民健康講演会(常総), 11月, 2017.
 16. 太刀川弘和:大学生の自殺予防～現状とその対応について～. 愛知県平成29年度第1回大学生向け自殺予防啓発事業研修会(名古屋), 12月, 2017.
 17. 太刀川弘和, 佐藤晋爾:東日本大震災5年後のこころのケアニーズ 北茨城市民調査から. 北茨城市南地区民生委員研修会(北茨城), 12月, 2017.
 18. 太刀川弘和:自殺未遂者と念慮者の対応. 常陸太田ゲートキーパーネットワーク研修会(常陸太田), 12月, 2017.
 19. 太刀川弘和:若者の自殺予防の現況と課題. 福岡大学精神医学研究室研修会(福岡), 12月, 2017.
 20. 船山 徹:骨粗鬆症性椎体骨折の治療～保存治療から手術まで～. 第6回つくば骨粗鬆症病診連携ミーティング(つくば), 2月, 2018.
 21. 太刀川弘和:東日本大震災5年後のこころのケアニーズ:福島避難者調査から. 東日本大震災の被災者・避難者のこころのケアニーズ啓発事業講演会(土浦), 2月, 2018.
 22. 杉江 征:茨城いのちの電話に学ぶ「相談の受け方・話の聴き方」. 平成29年度常総市連合民生委員児童委員協議会合同研修会(常総), 2月, 2017.
 23. 太刀川弘和:学生の自殺予防にむけてー筑波大学の取り組みー. 平成29年度茨城大学教職員向け対学生メンタルヘルス講習会(阿見), 3月, 2018.
 24. 太刀川弘和:学生の自殺予防のために. 平成29年度筑波技術大学FD研修会(つくば), 3月, 2018.
 25. 太刀川弘和:【基礎知識編】うつ病. 茨城県医療従事者うつ病・自殺予防対応力向上研修会(水戸), 3月, 2018.
 26. 太刀川弘和:東日本大震災5年後のこころのケアニーズ 神栖市民調査から. 平成29年度神栖市津波避難訓練(神栖), 3月, 2018.
 27. 太刀川弘和:「東日本大震災5年後の被災者・避難者こころのケアニーズ調査」報告. 平成29年度ふるさとふくしま交流相談・支援事業(水戸), 3月, 2018.

28. 船山 徹：骨粗鬆症性椎体骨折に対する筑波大学方式の保存治療～難治例を作らないために～。大腿骨近位部骨折地域連携セミナー in 古河（古河），3月，2018.
29. 船山 徹：骨粗鬆症性椎体骨折の治療～保存治療から手術まで～。Millennium Bridge Conference（つくば），3月，2018.
30. 白鳥裕貴：自殺ハイリスク者に対する理解と支援-事例を通じて-。平成29年度常陸太田市ゲートキーパー実務者研修会（常陸太田），3月，2018.

<特許取得>

1. 発明者：金子 剛，福田淳二。出願人：国立大学法人 筑波大学。発明の名称：大腸癌検出用内視鏡。特許第6137450号（登録日平成29年5月12日）。

<受賞>

1. 白鳥裕貴：縦列型精神科・身体科連携による自殺企図患者の企図後フォローアップ効果に関する予備的研究。茨城県医師会勤務医部会学術奨励賞，10月，2017.
2. 廣瀬 優，金子 剛：腸重積にて発見された回腸原発炎症性筋線維芽細胞性腫瘍の一切除例。専修医奨励賞。日本消化器病学会関東支部第348回例会（東京），2月，2018.
3. 山口雄二，金子 剛：非切除的に診断・加療しえた分節性動脈中膜融解症の2例。専修医奨励賞。日本消化器病学会関東支部第348回例会（東京），2月，2018.
4. 山城真美子，金子 剛：慢性好酸球性白血病との鑑別を要した好酸球性胃腸炎の一例。研修医奨励賞。日本消化器病学会関東支部第348回例会（東京），2月，2018.

平成31年3月

編集・発行 筑波大学保健管理センター

〒305-8577

茨城県つくば市天王台1-1-1

電話 (029) 853-2401・2403

FAX (029) 853-2402
